

～地域共生社会の実現に向けて～

# 地域の取組事例集



那須塩原市 社会福祉課

～はじめに～

かつて昭和の頃は、隣近所で顔の見える関係があり、それによって助け合い、支え合うことで安心した暮らしを営んでいたかと思います。

しかし、平成、令和と時代が移り変わる中で、少子高齢化や核家族化の進行、共働き世帯の増加、地域住民の関係の希薄化などを背景に、悩みを誰にも相談できず社会的に孤立する方が増加する問題が懸念されています。

そのような中、本市では、誰もが地域で安心して暮らせる社会、地域共生社会の実現を目指しています。

地域共生社会という地域の住民一人ひとりが、生きがいを持った暮らしを営める社会を実現するためには、地域の人々がお互い様の精神をもって助け合っていく、地域の互助力が大変重要となります。

それらを行政の立場としてあらゆる方面から支援する体制づくりを進めて行く必要があることから、その支援策の一つとして「地域の取組事例集」を作成しました。

この「地域の取組事例集」に取り上げた取組では、自治会を中心とした地域が、その地域に合った取り組み方法を考え、必要に応じて、行政や社会福祉協議会、福祉団体などと協力しながら、将来に向かって長く続けられるよう工夫されています。

「地域で何かを取り組みたい。でも、どう取り組んだらいいかわからない。」と思ったら、この「地域の取組事例集」をご覧ください、他の地域の取組の中から、自分の地域にあった取組のきっかけを見つけていただけたら幸いです。

那須塩原市社会福祉課地域共生係



～目次～

事例1	宮町自治会	P3～4
事例2	中央町自治会	P5～6
事例3	黒磯幸町自治会	P7～8
事例4	豊町自治会	P9～10
事例5	錦町自治会	P11～12
事例6	高砂町自治会	P13～14
事例7	本郷町自治会	P15～16
事例8	西新町自治会	P17～18
事例9	東原四区自治会	P19～20
事例10	下黒磯自治会	P21～22
事例11	東栄二丁目自治会	P23～24
事例12	下豊浦自治会	P25～26
事例13	東豊浦自治会	P27～28
事例14	弥生町自治会	P29～30
事例15	東大和町自治会	P31～32
事例16	豊浦町自治会	P33～34
事例17	青葉台自治会	P35～36
事例18	大黒町自治会	P37～38
事例19	住吉町自治会	P39
事例20	上黒磯自治会	P40
事例21	豊岡自治会	P41～42
事例22	鍋掛自治会	P43～44
事例23	樋沢自治会	P45～46
事例24	望田自治会	P47～48
事例25	新堀自治会	P49～50
事例26	東那須野区自治会	P51～52
事例27	方京自治会	P53～54
事例28	沓掛自治会	P55～56
事例29	下の内自治会	P57～58
事例30	石林自治会	P59～60
事例31	西三島自治会	P61～68
事例32	畑下自治会	P69～70
事例33	門前自治会	P71
事例34	中塩原自治会	P72
事例35	上塩原自治会	P73
事例36	関谷上町自治会	P74～75
事例37	宇都野地区自治会	P76～77

◆組織名 宮町自治会助け合いの会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

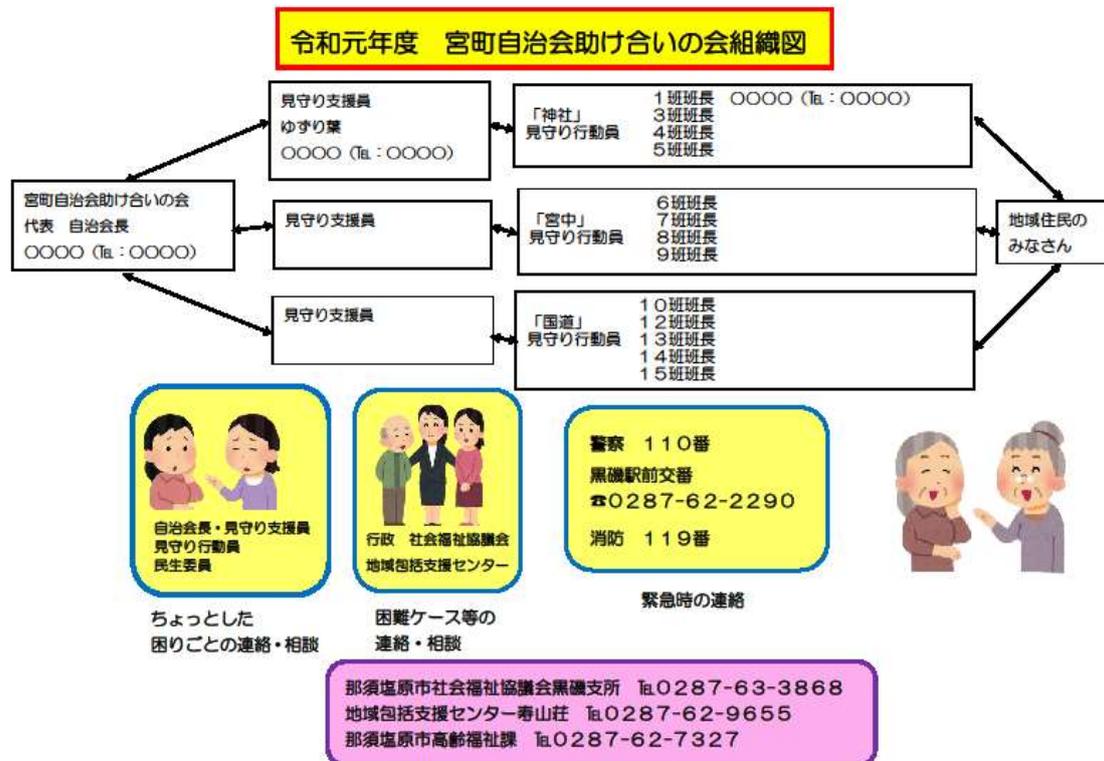
世帯数：約 140 世帯 地区内人口：約 260 人

年齢別人口：0～14 歳：約 10 人 (3.9%)

15～64 歳：約 140 人 (53.8%)

65 歳以上：約 110 人 (42.3%)

◆活動者 17 名（代表：自治会長、見守り支援員：3 名、見守り行動員 13 名）



◆活動主体 宮町自治会（社会福祉協議会地域支え合い推進員が支援）

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内高齢者及び心配な方

◆設立年月 平成 28 年 2 月

◆地域の課題 地域内の高齢化、関係の希薄化

#### ◆取り組むきっかけ

設立時の自治会長が、地域社会の高齢化・核家族化などで住民同士のつながりの希薄化が進み、地域社会から孤立する方々の社会問題が世間で起きていることを危惧し、孤立からくる諸問題を解消・解決できる組織づくりを考えていたため、「地域住民助け合い事業」を進める社会福祉協議会と話し合いを重ねてきた。平成27年8月に発足準備会を立ちあげ、会議を重ねながら地域の見守りマップを作成し、平成28年2月18日に発足式を行ない、同年3月4日行動員による広報配布から活動を開始した。

#### ◆取組内容

- ・年2回見守り活動定例会を開催し、見守りマップの見直しをしながら対象者の確認及び情報交換を行う。
- ・高齢者及び心配な方への広報の手渡し、回覧板を置きながら又は家の前を通りながらポストの使用状況、電灯点灯状況などを気にかける「ながら見守り」活動を行う。
- ・ちょっとした困りごとの相談。必要ならば専門機関へつなぐ。

#### ◆注意点や工夫点

- ・ご近所同士のお付き合いを活かしての互いに助け合う体制。
- ・踏み込まれたくないと思っている様子が伺える人に対しては遠目に外からの見守りを行うようにしている。
- ・必要に応じて地域内の配慮を要する人の事例検討会を、専門職を交えて行う。

#### ◆今後の取組

地域の昔ながらのつながりを維持し、“できることをできるときに” 行うご近所同士の無理のない見守り活動を今後も継続していきたい。

高齢者に限らず、地域の障がい者、子育てをしている方達の悩みや困っていることなどに早めに気づき、その改善に向けて早期に対応できるよう、みんなで考え助け合っていく活動にしていきたい。

#### ◆活動風景（みまもり活動定例会の様子）



◆組織名 中央町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 112 世帯 地区内人口：約 226 人

年齢別人口：0～14 歳：約 11 人 (4.9%)

15～64 歳：約 107 人 (47.3%)

65 歳以上：約 108 人 (47.8%)

◆活動者 防災訓練 協力者 7 名  
みんなで歌いましょう 協力者 5 名

◆活動主体 中央町自治会

◆活動種別

年 2 回実施の防災訓練と年 5 回開催の「みんなで歌いましょう」で高齢者の安否確認と住民同士が顔馴染みになるよう取り組んでいる。

◆対象者 防災訓練：住民全員  
みんなで歌いましょう：住民全員

◆設立年月 防災訓練：平成 21 年 10 月に第 1 回防災訓練を行う。  
平成 22 年 10 月に防災会設立。  
みんなで歌いましょう：平成 27 年 6 月

◆地域の課題 少子高齢化が進んでいるので自治会の行事をいかに続けていけるか。

◆取り組むきっかけ

「みんなで歌いましょう」は、以前に歌声喫茶の新聞記事を見て思いついた。  
この地域独自の行事として無理なく続けていけるもの、高齢者の皆さんも参加でき、喜んで楽しめるものをとということで考えた。

◆取組内容

防災訓練・「みんなで歌いましょう」は全住民対象として回覧板で参加を募り安否確認と住民同士の交流を行っている。

◆注意点や工夫点

防災訓練では毎回災害時や緊急時に役立つ実技（消火器・AED・担架等）の訓練を行っており、全世帯に「無事」の旗を配布し安否確認ができるようにしている。

「みんなで歌いましょう」では懐かしい童謡や唱歌をみんなで大きな声で歌い、健康体操も行うことで参加者の健康増進を心がけ、楽しくおしゃべりしながら情報交換をして安否確認を行っている。

◆今後の取組

防災訓練と「みんなで歌いましょう」は回数を重ねてすっかり定着したのでこのまま続けていきたい。

何かにつけて地域の人達が集まって顔見知りになることが大切で、それがお年寄りの見守り活動や防災活動にもつながることになると思う。

◆社会福祉協議会の協力

社会福祉協議会の職員と地域支え合い推進員には親身になってサポートしていただいております、参加者と一緒の仲間という意識で楽しく過ごして下さっている。毎回壁新聞も作っていただいております町内にも回覧しています。

◆活動風景



防災訓練で  
無事を表す旗



消火器訓練



AED 訓練



歌とおしゃべりで楽しいひと時



健康体操

◆組織名 黒磯幸町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 121 世帯 地区内人口：約 261 人

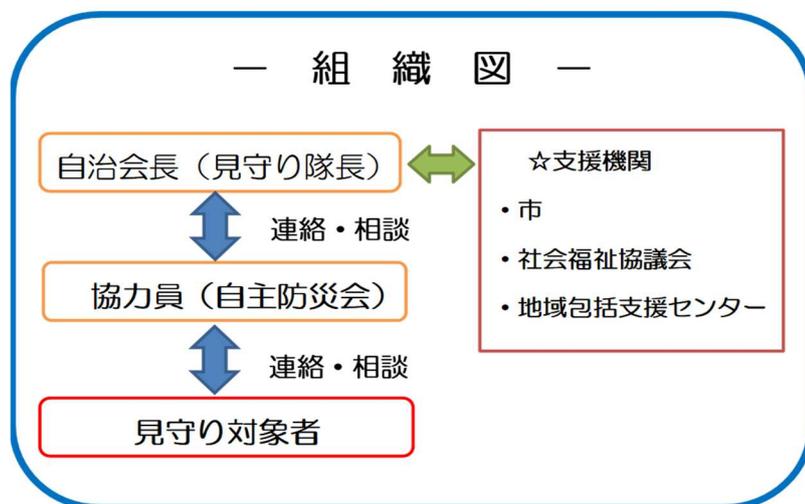
年齢別人口：0～14歳：約 21 人（8.8%）

15～64歳：約 150 人（57.5%）

65歳以上：約 90 人（34.5%）

◆活動者 8名（自主防災会役員）

◆活動主体 黒磯幸町自治会



◆活動種別 自主防災会の活動と合わせての見守り活動

◆対象者 避難行動要支援者支援制度希望者

◆設立年月 平成30年9月1日

◆地域の課題

少子高齢化。高齢者の中には自治会活動に参加できなくなったとの理由で自治会を抜ける人がいる。

◆取り組むきっかけ

自主防災組織の立ち上げと同時に、災害時の避難がスムーズにできるために日頃の見守りが大切と考えたため。

#### ◆取組内容

- ・見守り対象者への声掛けや広報の手渡し。
- ・防災会と見守りを合わせた会議を年 5 回程度開催。
- ・社会福祉協議会の地域福祉活動補助金を利用して、安否確認を兼ねた年 2 回の花植や高齢者との交流事業を行っている。

#### ◆注意点や工夫点

- ・自治会加入者宅及び班、防犯役員宅、ごみ収集所、防犯灯、消火栓、AED設置場所、災害時緊急避難所が記載されている黒磯幸町自主防災会防災マップを全世帯に配布。
- ・見守り対象者（避難行動要支援者支援制度希望者）を記載したマップを防災会役員に配布。

#### ◆今後の取組

- ・今行っている見守り活動と花植栽及び研修旅行を継続して行っていきたい。
- ・避難訓練をいつか行いたい。

#### ◆活動風景（花植栽活動）



◆組織名 豊町自治会

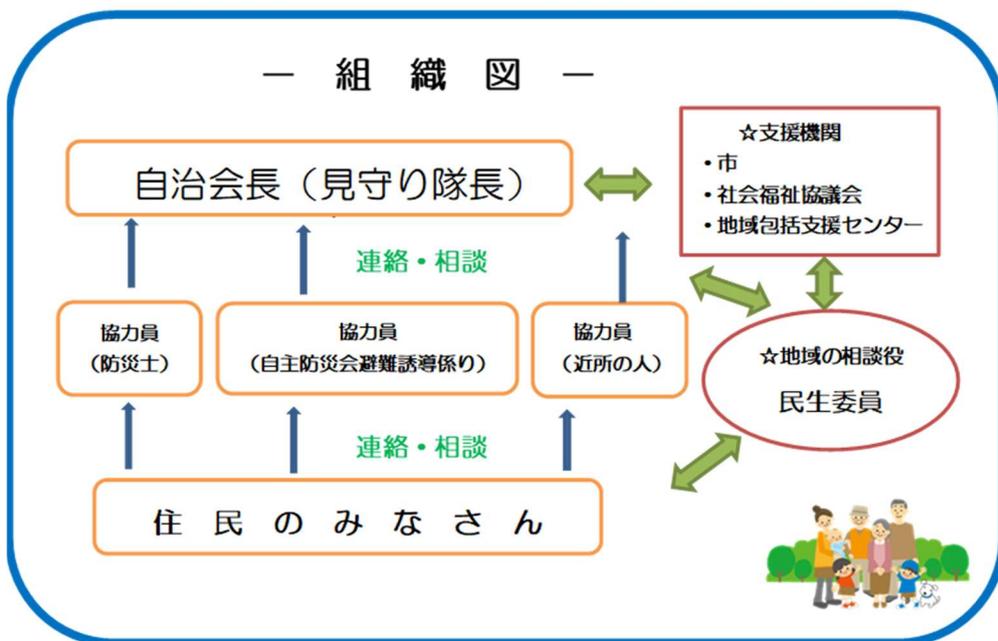
【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約 167 世帯 地区内人口：約 420 人 ※自治会未加入も含む  
年齢別人口： 0～14歳：約 43人 (10.2%)  
15～64歳：約 232人 (55.2%)  
65歳以上：約 145人 (34.5%)

◆活動者 10名

◆活動主体 豊町自治会



◆活動種別 地域の中で心配な人（高齢者や一人暮らし及び障がい者など）への見守り・声かけ・助け合いなど

◆対象者 高齢者・一人暮らし・障がい者等、地域で心配な人

◆設立年月 平成30年4月

◆地域の課題 児童生徒数の減少、高齢者世帯・一人暮らし他、配慮を必要とする住民の増加

#### ◆取り組むきっかけ

一人暮らし高齢者、障がい者が安心・安全で暮らせる町を目指し、平成 29 年から社会福祉協議会の地域活動補助金事業を利用して地域の心配な人を訪問して見守る「友愛訪問」を始めた。

徐々に協力員を増やして住民に活動を周知し、地域住民助け合い事業につないだ。

#### ◆取組内容

- ・豊町で定めた年齢（73 歳以上）の独居高齢者へ社会福祉協議会の補助金を利用した手土産を持参して訪問し安否確認を行う。
- ・回覧が滞りなく回っているか確認する。
- ・冬季火災予防の啓発を兼ねて防災士と訪問する。

#### ◆注意点や工夫点

- ・近所付き合いの関係を活かした見守り。（他の町内の協力者も有）
- ・見守り対象者リストを作成し、自治会長が毎年見直しをしている。
- ・今年度から元保健師を見守り協力員に加え、見守り活動に加えて健康相談もできる体制にした。

#### ◆今後の取組

- ・日頃から顔見知りになっておくことで災害時の緊急避難時に介助を含め、地域の安心・安全体制が強化できるようにする。
- ・見守り協力員で情報交換会を行うようにしたい。

◆組織名 錦町自治会 【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約 272 世帯 地区内人口：約 604 人  
年齢別人口： 0～14歳：約 79人（13.1%）  
15～64歳：約328人（54.3%）  
65歳以上：約197人（32.6%） \*自治会未加入も含む

◆活動者 22名（協力員）

◆活動主体 錦町自治会

◆活動種別 高齢者の一人暮らしや高齢者世帯を中心にした地域の見守り活動

◆対象者 高齢者を中心とした住民全員

◆設立年月 平成29年12月

◆地域の課題

高齢化。高齢のため班長ができないとの理由で班を抜けたがる人がいるので班内で工夫してなるべく自治会を抜けずに自治会活動に参加できるようにしている。

◆取り組むきっかけ

社会福祉協議会から地域住民助け合い事業の説明を聞き必要と感じ、防災等いろいろな角度から検討し、取り組むことにした。

◆取組内容

「錦町防犯パトロールプロジェクト」として

- ・高齢者の一人暮らしや高齢者世帯を中心に声かけ運動（2カ月に1回）
- ・小学生の登下校のサポートの際での見守り（平日）
- ・夜間の防犯パトロールの際での見守り（月1回）

◆注意点や工夫点

- ・生きがいサロンで欠席者の安否確認を行っている。
- ・できるだけ子供たちにも参加してもらえるように育成会と相談しながら行事を行い、顔見知りを増やすように心がけている。

◆今後の取組

現在行っている生きがいサロンや防犯パトロールプロジェクトを続けていけるようにしたい。

◆活動風景（高齢者への声掛け運動）



◆組織名 高砂町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入者も含む

世帯数：約 156 世帯 地区内人口：約 337 人

年齢別人口： 0～14歳：約 35人（10.4%）

15～64歳：約 178人（52.8%）

65歳以上：約 124人（36.8%）

◆活動者 16名（協力者）

◆活動主体 高砂町自治会

◆活動種別 日頃の近所の見守り、声かけ・ちょっとした手助けなど。

◆対象者 高砂町内住民

◆設立年月 平成27年9月

◆地域の課題 高齢者世帯・独居高齢者の増加

◆取り組むきっかけ

高齢者世帯・独居高齢者が増加傾向にあり、災害時に備え日頃の見守り等が必要と考えた。

◆取組内容

- ・日頃の近所の見守り、声かけ・ちょっとした手助け。
- ・社会福祉協議会地域福祉補助金事業で町内の子ども達と朝のラジオ体操を行い、顔見知りになるつながりを作る。
- ・社会福祉協議会地域福祉補助金事業で高齢者との会食会を行い、交流を深めることにより、日頃からの協力・助け合い等ができる環境作りを目指す。）

◆注意点や工夫点

- ・町内の回覧で助け合い協力員を毎年募る。（元気な高齢者自身が生活支援の担い手として活躍できる地域作りを目的とする。）

◆今後の取組

- ・要支援者マップを作成し、見守り対象者を把握する。
- ・お互いが協力し、助け合う地域作りを目指す。

◆活動風景



朝のラジオ体操の様子



高齢者との会食会

◆組織名 本郷町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

\*自治会未加入も含む

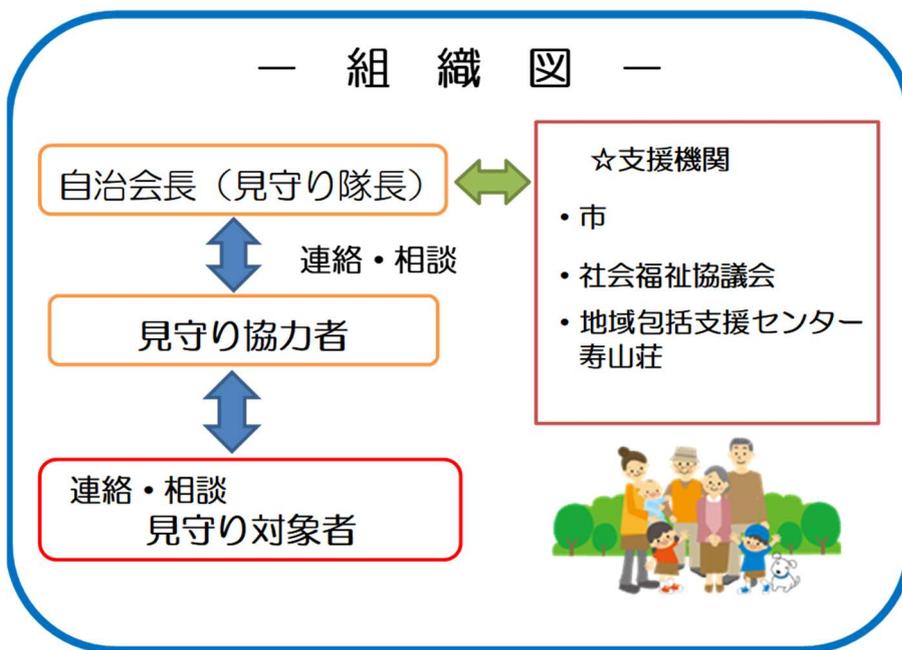
世帯数：約 102 世帯 地区内人口：約 215 人

年齢別人口： 0～14歳：約 27人（12.6%）

15～64歳：約124人（57.7%）

65歳以上：約 64人（29.8%）

◆活動者 7名（協力者）



◆活動主体 本郷町自治会

◆活動種別 一人暮らしや高齢者世帯・障がい者世帯等、心配な人の見守り活動

◆対象者 一人暮らし、高齢者世帯、障がい者世帯等、心配な人

◆設立年月 令和元年6月

◆地域の課題 少子高齢化

◆取り組むきっかけ

総会で社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」の説明を受け、高齢者が多い地域なので見守りは必要と思い取り組むことにした。

◆取組内容

- ・年2回見守り活動会議を開催し、見守りマップの見直しをしながら対象者の確認及び情報交換を行う。
- ・日頃の生活の中で心配な人を気にかけてみている。

◆注意点や工夫点 近所付き合いを活かした外からの見守り。  
協力員の連絡網を作成し必要な連絡をとるようにしている。

◆今後の取組 始まったばかりなので持続させていくことに努めたい。

◆活動風景（見守り活動会議の様子）



◆組織名 西新町自治会見守り活動

【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約296世帯 地区内人口：約711人

年齢別人口： 0～14歳：約 78人（11.0%）

15～64歳：約 442人（62.2%）

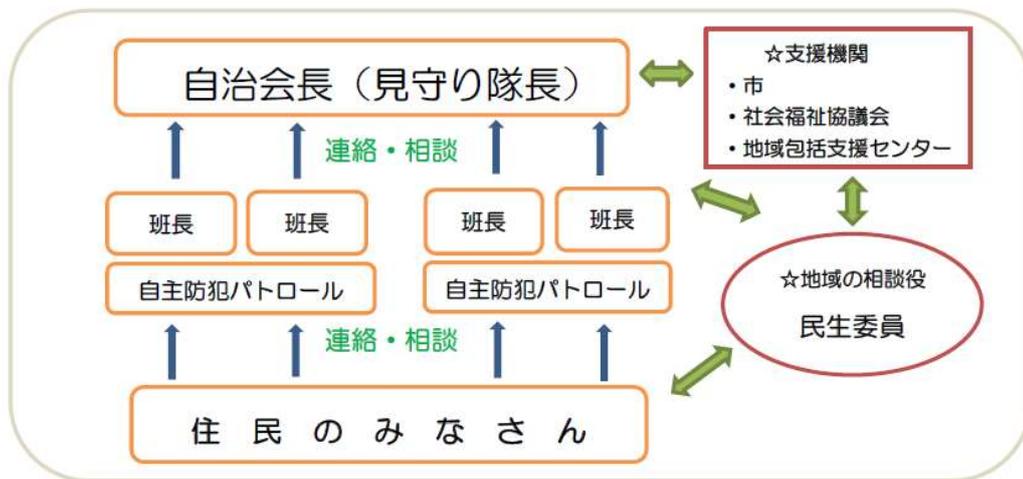
65歳以上：約 191人（26.9%）

※自治会未加入者を含む

◆活動者 30名

（見守り隊長：自治会長

見守り協力員：班長15名・自主防犯パトロー14名）



◆活動主体 西新町自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内の心配な方

（高齢者、障がいのある方、歩行困難者、避難行動要支援者支援制度対象者等）

◆設立年月 平成27年4月

◆地域の課題

自治会内の少子高齢化。核家族の共働き世帯が多く、声掛けや見守りを必要とする高齢者世帯が増加している。また、地域社会全体の連帯感が希薄化している。

◆取り組むきっかけ

以前から声掛け運動として活動を行っており、地域住民が自らの地域の状況を把

握ることが必要だと感じていた。コミュニティの会議の際に社会福祉協議会からの「地域住民助け合い事業」説明を聞き、大切な事なのでやらなければならないと思い、取り組みに至った。

#### ◆取組内容

各班長から心配な人をピックアップしてもらい、自治会長が見守り対象者リストを作成。

対象となった高齢者及び心配な方への声掛けや、月2回の広報誌配布の際に直接手渡しするなど必ず顔を見て様子を伺うなどの見守り活動を実施。

また、月1回の自主防犯パトロールでの見守り・安否確認、役員会(月1回)や自主防犯パトロール終了後の情報交換、ちょっとした困りごと、困難ケース等の連絡・相談に対応。

#### ◆注意点や工夫点

西新町自治会スローガン「明るく楽しく心豊かな街」の実現を目指して、無理のない範囲での見守り活動を行っている。

#### ◆今後の取組

声掛け、安否確認等の「無理のない見守り」を継続し、ゴミ出し等のちょっとした手伝いも出来るようにしていきたい。

#### ◆活動風景



◆組織名 東原四区自治会地域住民助け合い

【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約223世帯 地区内人口：約578人

年齢別人口：0～14歳：約69人（11.9%）

15～64歳：約361人（62.5%）

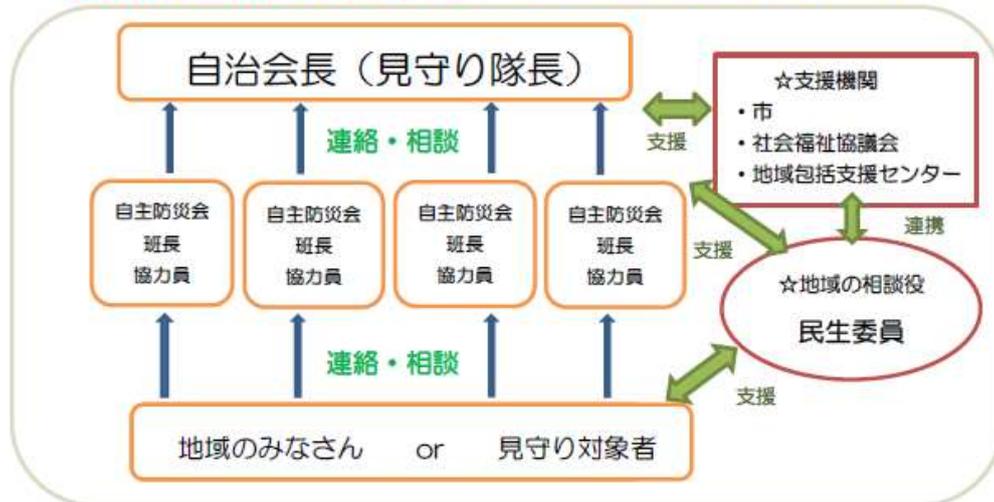
65歳以上：約148人（25.6%）

※自治会未加入者を含む

◆活動者 18名

（見守り隊長：自治会長、見守り協力員：班長11名・自主防災会6名）

### 東原四区自治会地域住民助け合い



◆活動主体 東原四区自治会

◆活動種別 地域の心配な方の見守り活動

◆対象者 避難行動要支援者を含む自治会内高齢者及び地域住民

◆設立年月 平成31年4月

◆地域の課題

自治会内の少子高齢化。地域で若い世代と高齢者とのつながり・交流の希薄化。高齢者世帯等、自治会を抜けてしまうケースが見受けられる。

◆取り組むきっかけ

災害時に地域住民の力が必要となり、住民同士のつながりが重要だと感じた。社

会福祉協議会からの地域住民助け合い事業の説明を聞いた時に、内容が自分たちの地域に合っている、必要なことだと思い取り組むことにした。無理のない範囲で、地域の高齢者や心配な方を地域全体で気に掛けていきたいと思いますということになった。

#### ◆取組内容

防災訓練でのマップ作成・状況確認。高齢者及び心配な方を主とした地域住民への見守り活動(広報配布や回覧時の手渡しによる安否確認、行事(事業活動)の際の声掛け・見守り、散歩や買い物など日頃の生活の中での気かけ・声掛け)、ちょっとした困りごとの連絡・相談、困難ケース等の連絡・相談。

#### ◆注意点や工夫点

見守りの対象者にも負担をかけないようにする。協力員も「無理なくできる時にできる範囲で」の見守り活動を行う。

#### ◆今後の取組

無理のない範囲での見守り活動の継続。毎年班長が交代していく中で、この活動が皆に広がっていくようにしていきたい。活動を続けることによって地域住民助け合い事業を皆に知ってもらい、地域住民が「お互いを気にかけて合う」という意識を広めていきたい。

高齢者と子供たち等若い世代がつながりを持てる地域になるようにしていきたい。

#### ◆活動風景



◆組織名 下黒磯「見守りの和」

【黒磯地区】

◆地区の概要（自治会未加入者も含む）

世帯数：約 269 世帯 地区内人口：約 532 人

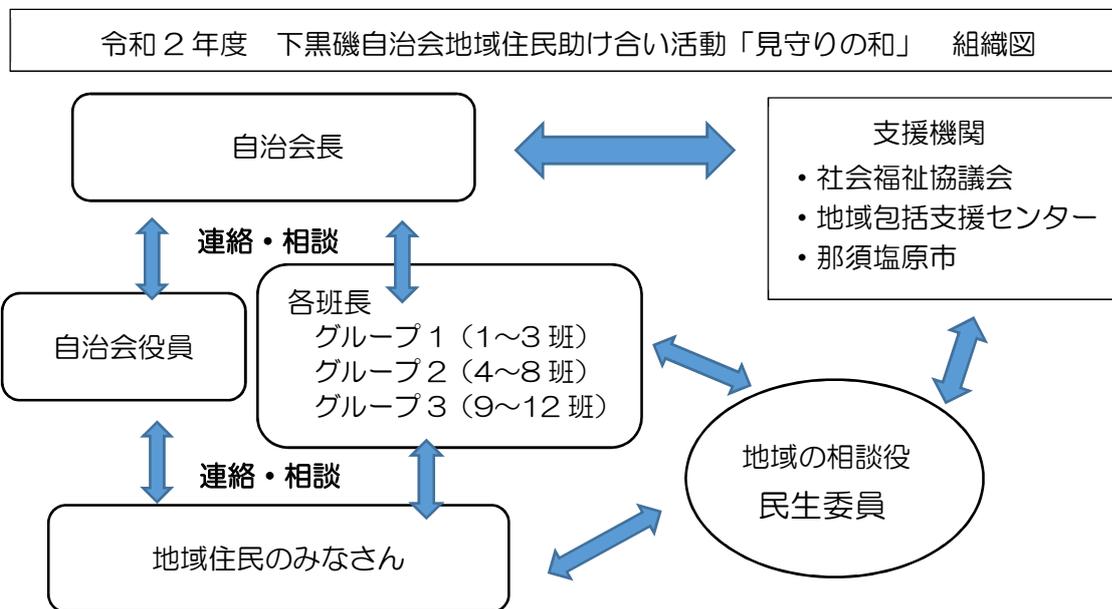
年齢別人口： 5～14 歳：約 56 人（10.5%）

15～64 歳：約 296 人（55.6%）

65 歳以上：約 180 人（33.8%）

◆活動者 15 名

（自治会役員 6 名、民生委員 1 名、班長 8 名（うち役員兼務 2 名、民生委員兼務 1 名））



◆活動主体 下黒磯自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 避難行動要支援者

◆設立年月 平成 30 年 11 月

◆地域の課題 地域内の高齢化、独居高齢者等で支援を必要とする人の増加、自治会加入率の低下、消防団員の不足

#### ◆取り組むきっかけ

社会福祉協議会からの「地域住民助け合い事業」の説明を受け、自治会長や自治会役員らが見守り活動の必要性を感じ取り組むこととした。

#### ◆取組内容

【訪問】 月2回（第1、4日曜日）対象者宅訪問

方法：協力者を3班に分け、毎回1班ずつ活動する。

個別支援チェックシートを作り、訪問した際の内容を記録に残す。

【日頃から】・家の外から電気、郵便受け等を確認する。

- ・空き地、空き家などに異常がないか早期発見する
- ・体調や生活状況を確認し、困りごとを把握する
- ・地域住民同士のつながりを促進するよう、声かけを意識する

#### ◆注意点や工夫点

ご近所同士のお付き合いを活かして互いに助け合う体制ができあがるよう、班長に協力者になってもらい、意識をもってもらうようにした。

毎回の訪問に自治会役員や民生委員が必ず同行し、班長の負担軽減、課題に早期対応できるようにしている。

年に1度の情報交換会を実施し、見守り活動の課題を共有したり、目的の再認識を図れるようにしている。

#### ◆今後の取組

ちょっとした心がけで安心した地域作りにつながるように、“できることをできるときに”無理のない活動を今後も継続していく。

見守り対象者が避難行動要支援者と限定されているため、それ以外の地域の中で気になる人へも対象を広げていけるようにする。

新しい生活様式に則った見守り活動を行い、対象者を定期訪問するだけでなく、日頃から心配な人を気にかけて外からの日頃の見守りを強化するなど、班長はじめ地域全体の意識づけをしていく。

◆組織名 東栄二丁目住民助け合い活動

【黒磯地区】

◆地区の概要

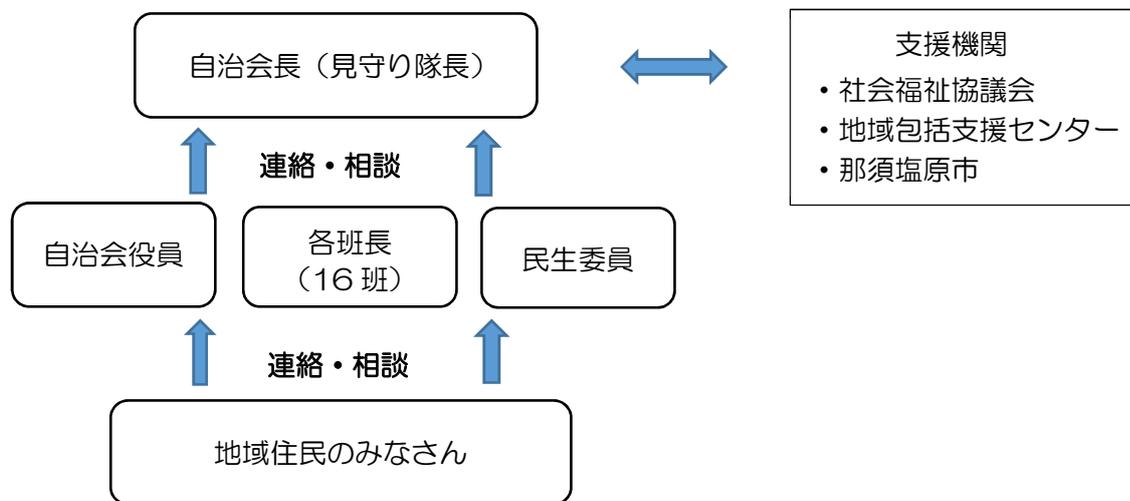
世帯数：約 315 世帯 地区内人口：約 640 人

年齢別人口：0～14 歳：約 63 人（9.8%）

15～64 歳：約 370 人（57.8%）

65 歳以上：約 207 人（32.3%）

◆活動者 20 名（代表：自治会長、自治会役員：3 名、民生委員兼務：1 名、班長：16 名）



◆活動主体 東栄二丁目自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 避難行動要支援者、高齢者及び心配な方

◆設立年月 平成 30 年 11 月

◆地域の課題

自治会未加入者や退会者の増加、近所付き合いの希薄化  
住民の高齢化、独居高齢者、高齢世帯の増加  
休止状態の自主防災会の運営の見直し

◆取り組むきっかけ

自主防災の運営に悩んでいる中、社協から「地域住民助け合い事業」を市内全域自

治会単位で進める旨の説明があった。ならばまずは勉強会からということで、平成 29 年 5 月から役員と班長全員で、社協による勉強会を皮切りに「住民助け合い活動会合」を 1 年半ほど延べ 9 回開催し、平成 30 年 11 月から活動を始めるに至った。

#### ◆取組内容

- ・避難行動要支援同意者を見守り対象者とする。
- ・各班の班長が、自分の班の見守り対象者の見守り(声かけ、安否確認)を行う。
- ・訪問や声かけ、安否確認は月に 1~2 回の頻度で行う。
- ・定期会合を二ヶ月に 1 回開催し、見守りの状況報告や困りごとの相談をしたり、情報の共有を図る。

#### ◆注意点や工夫点

- ・住宅地図を自主防災組織と連動させて、16 の班を 5 ブロック 5 グループ編成に区分した。
- ・毎年見守りマップを更新する。新班長が 5 グループに分かれ地図の対象者宅に色塗りをして、お互いの対象者の把握に努めている。
- ・自治会未加入対象者は、民生委員兼務の役員が担当し、自治会未加入者も見守る体制にした。

#### ◆今後の取組

- ・定例会の都度、話し合いで新たな心配な人の発掘に努め、見守り対象者に加えていく。
- ・毎年班長が代わり見守り活動を経験することで、先々皆がお互いに見守る人になる。
- ・“困った時はお互い様”の視点で、みんなで考え、支え合える地域づくりを目指す。

#### ◆活動風景



◆組織名 下豊浦自治会見守り隊

【黒磯地区】

◆地区の概要（自治会未加入者も含む）

世帯数：約 593 世帯 地区内人口：約 1,527 人

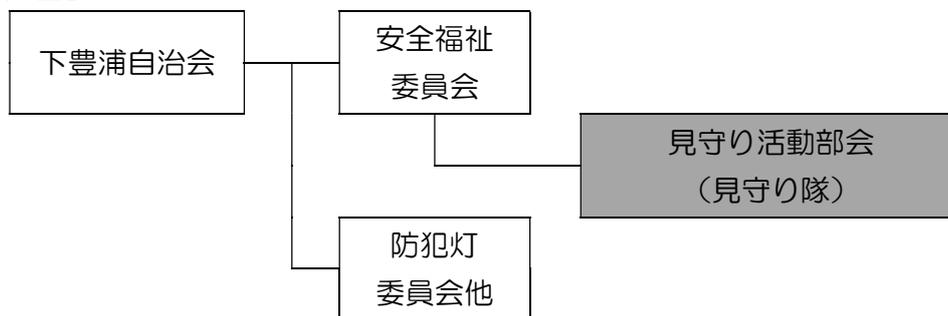
年齢別人口： 0～14 歳：約 209 人（13.7%）

15～64 歳：約 917 人（60.1%）

65 歳以上：約 401 人（26.3%）

◆活動者 12 名（代表：自治会長、見守り隊員は自治会長を含めて 12 名）

【組織図】



◆活動主体 下豊浦自治会（社会福祉協議会地域支え合い推進員の支援）

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内高齢者、心配な方（当初は自治会員、順次未加入者に拡大）

※避難行動要支援者支援制度への登録者の中から、完全独居の高齢者、昼間独居の高齢者、高齢夫婦世帯の方を中心に抽出し、民生委員と事前訪問を行い、見守り訪問の了解をいただいた方。スタート時では、登録者 60 人中、37 人（29 軒）が対象。

◆設立年月 令和元年 6 月

◆地域の課題 地域の高齢化、関係の希薄化

◆取り組むきっかけ

①前自治会長が過去数年にわたって見守り活動の必要性・重要性を提唱していたため、平成 30 年に就任した現自治会長が、避難行動要支援者支援制度の取組開始をきっかけに、地域支え合い推進員の支援を得てスタートした。

②避難行動要支援者支援制度は、災害時の対応であり、個別計画の避難支援者情報

欄が空欄であったり、1人であったり、遠方であったりすることが散見された。  
③避難行動要支援者支援制度・個別計画の避難支援者だけでは対応しきれないことが想定されるので、日頃から見守り活動によって顔なじみになっておくことが必要と考えた。

- ◆取組内容 ①訪問による安否確認等（1～2カ月に1回、または3カ月に2回程度）
- ②定例会議の開催（軌道に乗るまで当面は3カ月ごと）
- ③民生委員と連携して、諸事案の対応

◆注意点や工夫点

- ①対象者を避難行動要支援者支援制度登録者から抽出した。
- ②民生委員による提案の受け入れ。（自治会未加入者を含む）
- ③日頃の民生委員との連携を密にする。
- ④経験の無いことへの取組みなので、定例会議を確実に開催し、情報と経験の共有化を図り、当自治会らしい活動を構築して行こうという意思の統一を図った。
- ⑤350世帯、26班を、隣接する班を組み合わせ7つのグループ（エリア）に分け、原則としてそのエリアに居住する見守り隊員を張り付けた。

◆今後の取組

- ①本来であれば、見守り活動は顔なじみの近隣者や班長が行うのが望ましいあり方であるとする。
- ②しかし、毎年変わる班長の意識にはかなりの差があると判断したため、見守り隊を発足させた。
- ③今後の課題
  - 1) 毎年変わる班長に対する啓蒙活動を通じて、近隣者による見守り活動が主体となるような環境を造る。
  - 2) 現在の見守り隊員は複数の班をグループ化したエリアのスーパーバイザーとして班長の支援、アドバイザーとして位置付ける。

◆活動風景 令和元年12月7日（土）、外部講師を招いて『傾聴』の学習会を開催した。



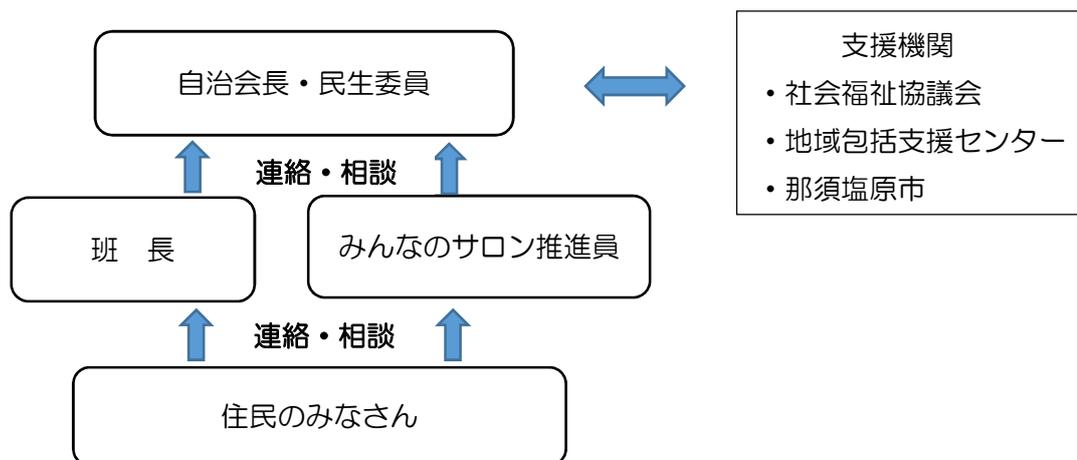
◆組織名 東豊浦自治会地域住民助け合い活動

【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：209 世帯 地区内人口：435 人  
年齢別人口：0～14 歳：49 人（11.3%）  
15～64 歳：238 人（54.7%）  
65 歳以上：148 人（34%）

◆活動者 22 名（自治会長、民生委員（現在欠員）、自治会役員及び班長：11 名、  
みんなのサロン推進員：10 名）



◆活動主体 東豊浦自治会

◆活動種別 高齢者等見守り活動、居場所づくり

◆対象者 自治会内の独居高齢者や高齢者世帯等心配な方及び避難行動要支援者

◆設立年月 令和元年 8 月

◆地域の課題 自治会内の少子高齢化、ご近所付き合いの希薄化

◆取り組むきっかけ

社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」の説明を受け、地域状況の見える化を行うために地域住民に集まってもらい、高齢者や障害者など心配な方の地図への落とし込みを行った。そこで地域内の高齢者の多さを認識し、日中の居場所づくりを行うことになった。その居場所及び見守りの場である「東豊浦みんなのサロン」が平成 29 年 12 月に開始し、現在は月に 1 回程度開催している。その後、みんなのサロンに来ていない方にも見守りができるよう、自治会長、民生委員、社会福祉協議会とで協議を続け、ご近所という“近さ”を活かして班長が見守り協力員になり、日頃から何気なく気にかける見守り活動に取り組むこととなった。

#### ◆取組内容

「東豊浦みんなのサロン」を毎月1回開催し、体操やゲームなどで体を動かしたり、お茶のみをしながらおしゃべりをして生きがいづくりと安否確認を行う。1月・8月はサロンを休止とし、みんなのサロン推進員による意見交換会と見守り対象者の見直しを行う。

班長による家の外からの日頃の何気ない見守りや訪問（回覧板手渡しや自治会の集金時など）しての声かけと安否確認、ちょっとした困りごとの連絡・相談、無理のないちょっとしたお手伝いなど。

#### ◆注意点や工夫点

「東豊浦みんなのサロン」ではなるべく多くの住民有志に“みんなのサロン推進員”になってもらい、住民の手で無理なく主催できるようにした。

みんなのサロンは“住民の居場所や生きがいづくり”と併せて、参加することでお互いに見守ることができ、その場で現状報告や活動していて心配ごとがないか等の話し合いを行う。また、公立公民館であるとようら公民館で開催しており、住民誰でも利用可能なので、自治会員以外でも参加できるようにした。

みんなのサロンに参加できない方も見守りができるよう、各班長にも見守り協力員とってもらった。毎年交代となる班長が見守り協力員になるため、活動内容が分かりやすいように見守り活動マニュアルを配布し、ゆくゆくは全住民が見守り経験者となり、見守りの意識を持ってもらえるようにした。

#### ◆今後の取組

現在サロン推進員が主となって、みんなのサロンの運営や見守りをを行っているが、サロンに参加している人みんなに“自ら参加することが見守り”という行為となること、隣近所の人にもサロンに一緒に行こうと声を掛けたり、迎えに行ったりすること自体が“見守り”となることを意識的に行っていく。なるべく参加者みんなが見守り協力者として、サロンを継続していきたい。班長による見守りの継続と、班長が終わっても引き続き東豊浦の住民のみなさんがお互いに支え合いながら生活できる地域づくりに協力してもらえるよう取り組んでいく。

#### ◆活動風景



令和元年度新役員・班長会



「東豊浦みんなのサロン」  
活動（サイコロビンゴ）の様子

◆組織名 弥生町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 232 世帯 地区内人口：約 471 人

年齢別人口：0～14歳：約 31人（6.6%）

15～64歳：約207人（43.9%）

65歳以上：約233人（49.5%）

◆活動者 20名（協力者）

◆活動主体 弥生町自治会

◆活動種別 高齢者を中心とした地域の見守り活動。  
小学生の登下校見守り活動。

◆対象者 敬老会該当者の内の一人暮らし・高齢世帯者・小学生

◆設立年月 平成26年7月

◆地域の課題 高齢化（見守り隊員の高齢化、隊員後継者の確保）

◆取り組むきっかけ

弥生町内の敬老会該当者が100名以上と高齢化が進んでおり、一人暮らし又は高齢者世帯の方たちを訪問し、声かけ、会話をすることで孤立化を妨げるようにしたい。

また、登下校中の子ども達にも挨拶を交わしたり、声をかけて子ども達の安全を守れたらという思いもあった。

この様な活動が町内の防犯活動にも繋がればという思いから「見守り隊」を結成することにした。

◆取組内容

- ・弥生町内を5班に分けて見守り活動を行っている
- ・年2回見守り隊経過報告会を開催する
- ・訪問は月1回以上とし、訪問日は各班で決める
- ・見守り方法は、回覧板の手渡しや、電気の点灯・消灯 ・など
- ・カーテンの開け閉めがあるか等、外からのさりげない見守り。
- ・交差点での登校班見守り、登校班への付き添い見守り（週4回以上）

◆注意点や工夫点

- 見守り対象者の中には見守られることを嫌う人もいるので、気分を害さないように気遣いをしている。
- 登下校見守りの際には「弥生町見守り隊」ロゴ入りのベストを着用し、地域の防犯活動をアピールするよう努めている。

◆今後の取組

敬老の集いの運営に協力する中で高齢者との交流を深め情報交換していきたい。自主防災組織を立ち上げる際には避難行動要支援者を最優先する新たな組織に再編成し、自主防災組織との一元化を図っていきたい。

登下校の見守りについては他の団体との連携を図っていきたい。

◆組織名 東大和町助け合いの会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

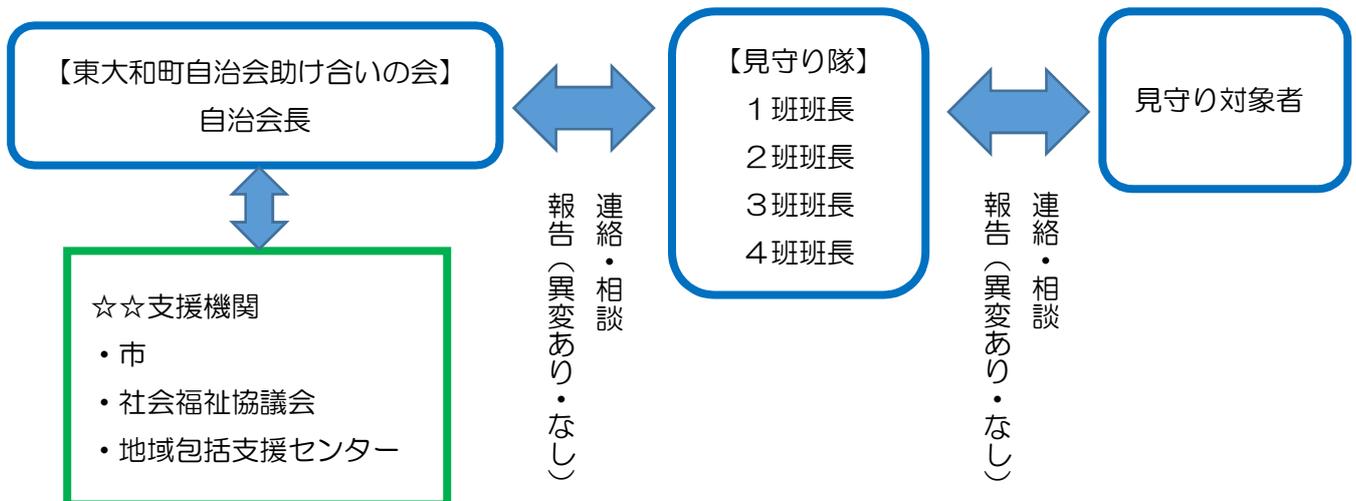
世帯数：約 41 世帯 地区内人口：約89人

年齢別人口：0～14歳：約 5人（5.6%）

15～64歳：約47人（52.8%）

65歳以上：約33人（37.1%）

◆活動者 5名（自治会長1名、班長4名）



◆活動主体 東大和町自治会

◆活動種別 日中独居の高齢者や一人暮らしの高齢者世帯の見守り

◆対象者 日中独居の高齢者や一人暮らしの高齢者世帯

◆設立年月 平成28年12月5日

◆地域の課題

見守る側も高齢になってきて、高齢者が高齢者を見守りしていく時代になっている。高齢化に伴い見守り隊の再結成も考慮し、今後の課題となっています。

◆取り組むきっかけ

自治会長になって、社会福祉協議会や民生委員から、他の自治会ですでに結成して活動しているとの事があった。

社会的に高齢者の諸問題がマスコミに報道され他人事ではない等の思いもあり、無理なく、極自然に活動するということで始めました。

#### ◆取組内容

- 自治会長が月2回の広報誌を班長宅へ配布するときに自治会長が見守りを行う。  
(訪問5世帯、外からの見守り1世帯)
- 班長は寄付や募金等の集金で訪問するときに班内の対象者の見守りを行う。  
\*外からの見守りを行う方への配慮についてはできるだけ自然体で、何げなく  
を心情に、時々窓などが開いている時や、お庭に出ている時等は必ずお声を  
かけるなどしている。

#### ◆注意点や工夫点

- 自治会役員、班長、民生委員の連絡先が記載されている緊急連絡網を作成。
- 東大和町独自の活動記録表を使用。

#### ◆今後の取組

見守り隊のみでは十分ではありませんが、月2回の広報誌や班回覧の配布の際に必ず対象者への声かけや、安否確認を今後も実施して行きたい。

見守り活動が自主防災組織の結成につながればよいと考えています。

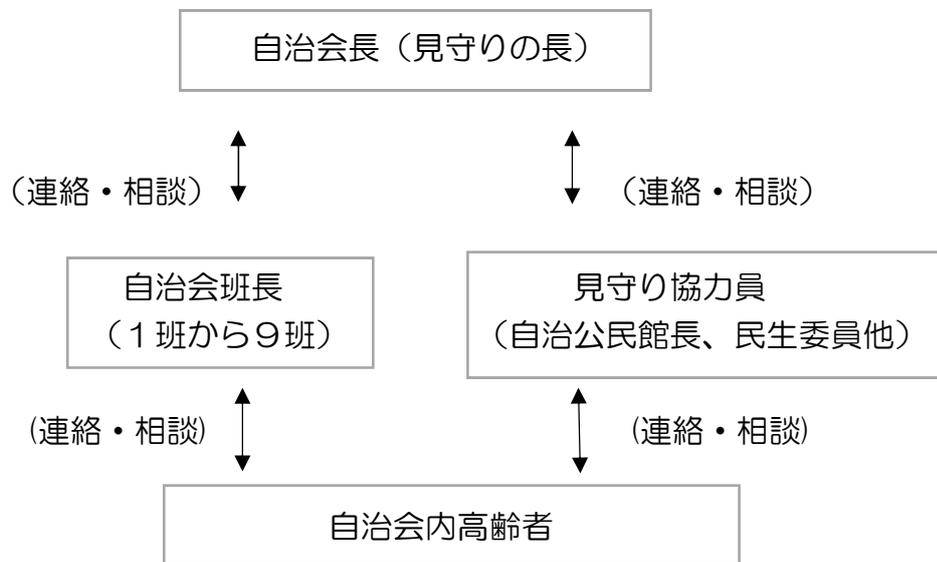
◆組織名 豊浦町見守り活動

【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約132世帯 地区内人口：約294人  
年齢別人口：0～14歳：約23人（7.8%）  
15～64歳：約163人（55.4%）  
65歳以上：約108人（36.7%）

◆活動者 6名（自治会長、民生委員、会計、自治公民館長、ゴミ減量推進員、サポート役員）



◆活動主体 豊浦町自治会

◆活動種別 高齢者見守り活動

◆対象者 自治会内高齢者（65歳以上の独居高齢者、高齢者のみの世帯、敬老会招待者）

◆設立年月 平成25年6月

◆地域の課題

- ・持ち家の方は全世帯が自治会に加入をしていますが、マンションやアパートに移り住む方は未加入です。賃貸の方をどう加入に持ち込めるかというよりも、街灯費とか消防費とか基本的な費用の負担をしていただけるかが課題です。

◆取り組むきっかけ

- ・高齢者が多い地区なので、いざという時に常に住民同士でコミュニケーションをとっていくことが大切と思い活動を始めた。

◆取組内容

- ・毎月1回、ボックスティッシュやトイレットペーパー、ハンドソープ等を届け、時には廃品回収などの協力もしております。また、市内の障害者就労支援施設「ぷらねっと」で製造をした手作り味噌などと一緒に独自に作成した注意喚起のチラシを高齢者宅へ配布しながら安否確認を行う。留守の際には、自治会長が再度高齢者宅に電話やメールで安否確認をしている。

◆注意点や工夫点

- ・訪問をすることで対象者の状況を確認することや普段会話をする機会が少ない独居高齢者の方々とはちょっとした世間話をする心を心がけている。  
また、訪問時に対象者宅にある廃品（段ボール、新聞紙等）の回収も併せて行っている。

◆今後の取組

- ・それぞれが無理のない範囲で活動する。地域の横のつながりを育むことで住民の孤独感や不安をなくしたい。

◆活動風景



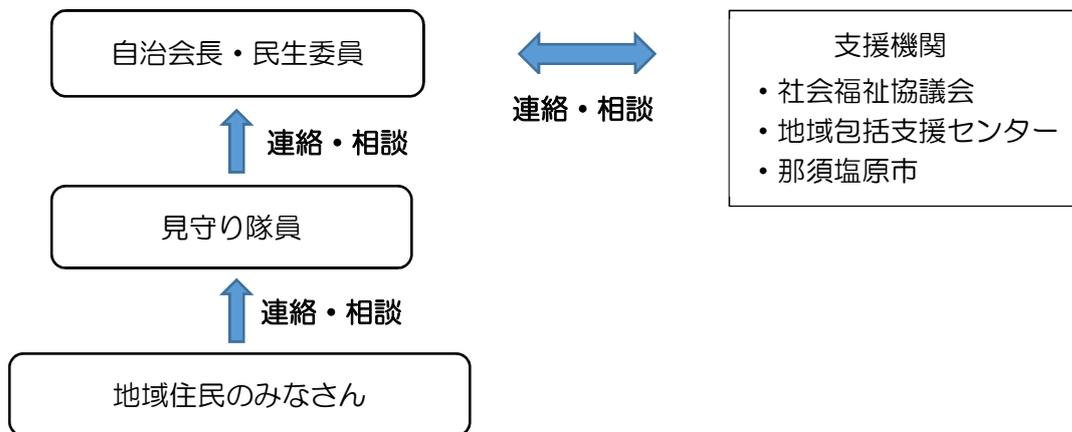
◆組織名 青葉台見守り隊

【黒磯地区】

◆地区の概要

世帯数：約 85 世帯 地区内人口：約 183 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 30 人（16.4%）  
15～64 歳：約 117 人（63.9%）  
65 歳以上：約 36 人（19.7%）

◆活動者 22 名（代表：自治会長、見守り隊員：19 名、協力：民生委員）



◆活動主体 青葉台自治会下部組織（有志ボランティア）

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内高齢者及び心配な方

◆設立年月 平成 28 年 12 月（「青葉台見守り隊」結成：平成 29 年 6 月）

◆地域の課題

比較的新しくできた住宅地であり、日中仕事で不在になる家も相当数あり、日頃の住民同士の関わりの希薄化や防犯上の心配がある。  
高齢者世帯、高齢者同居世帯、単身者世帯の増加。

◆取り組むきっかけ

設立時の自治会長が、近い将来自治会内でもお互いに目配り・気配りが必要になると考え、今のうちに助け合える組織を少しずつ作っていかうと考えており、「地域住民助け合い事業」を進める社会福祉協議会の協力を得て取り組みを開始した。「まずは、できることから始めて徐々にステップアップをしていく」という当時の自治会

長の思いのもと、平成 29 年には自治会内で見守り隊として活動してもらう有志を募り、形を変えながら青葉台自治会に合った形での見守り組織を作っている。

#### ◆取組内容

スローガン：「近すぎず、遠くもなくして良い関係」

見守り隊員はボランティアとして見守り活動に協力してくれる住民を募り、自治会内巡視（毎週土曜日）、定期意見交換会（2 か月に 1 回）を実施。

全住民による日頃の何気ない見守り、困りごとの連絡・相談。

#### ◆注意点や工夫点

「見守りカード」を使用し、事前に見守ってほしい人へアンケートをとった。巡視活動の中で「見守りカード」に登録した方に対して重点的に見守りをする。

巡視活動は 1 回 5 名程で輪番制で行っており、不審者に対する抑止効果や不法投棄の撲滅等を目指す。

コミュニティの希薄化が進みつつある中で、巡視活動も隊員間の一つのコミュニティの場と捉え情報を共有し、地域の裾野を広げる活動となっている。

#### ◆今後の取組

「近すぎず、遠くもなくして良い関係」を維持し、地域の状況の変化に応じた活動を今後も継続していきたい。

自治会の行事等に多世代の人たちが参加してもらえるよう働きかけたい。それがひいてはつながりづくりとなり、助け合える関係性へと発展していくようにしていきたい。

#### ◆活動風景



◆組織名 大黒町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約124世帯 地区内人口：約228人

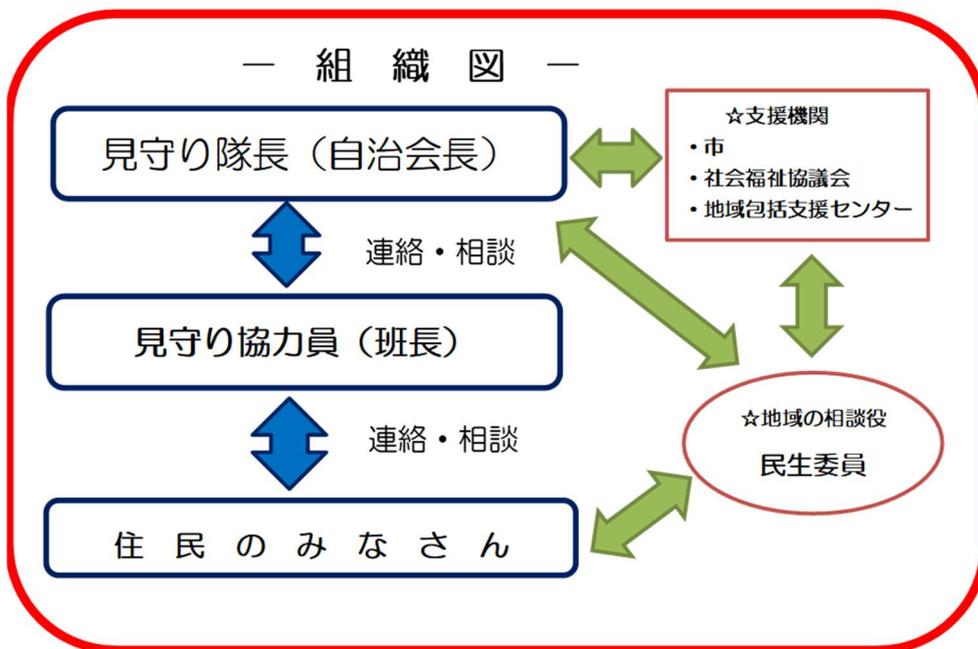
年齢別人口：0～14歳：約13人（5.7%）

15～64歳：約151人（66.2%）

65歳以上：約64人（28.1%）

◆活動者 6名（自治会長、班長）

◆活動主体 大黒町自治会



◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内の高齢者及び心配な方

◆設立年月 令和2年3月（令和2年4月から活動開始）

◆地域の課題 少子高齢化

◆取り組むきっかけ

災害が起きた時の安否確認ができる仕組みを作りたいと考え、そのために日頃の見守りから始めることにした。

◆取組内容

・班長による月1回の見守り。（ポストの使用状況、電気点灯状況など）

- 広報がスムーズに回覧されているか確認。
- 年2回情報交換会を開催し、見守りマップの見直しを行う。

◆注意点や工夫点 自治会内の情報の共有を図り、自治会全体を見守れるようにする。

◆今後の取組 活動を開始したばかりなので、様子を見て考えていきたい。

◆組織名 住吉町自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 278 世帯 地区内人口：約 626 人

年齢別人口：0～14 歳：約 74 人（11.8%）

15～64 歳：約 362 人（57.8%）

65 歳以上：約 190 人（30.4%）

◆活動者 13 名（近所の人、協力者）

◆活動主体 住吉町自治会

◆活動種別 地域の一人暮らし及び高齢者世帯、障がい者世帯及び育児中の世帯等  
班長の目線で心配な人の見守り活動

◆対象者 見守りを希望し、承諾書を提出された方

◆設立年月 平成 27 年 4 月

◆地域の課題 高齢者世帯の増加、マンションには若い世帯がいるが自治会未加入

◆取り組むきっかけ

平成 27 年 3 月の総会で社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」の説明を受け、4 月から取り組むことにした。

取組当時、班長に班内の見守りが必要と思われる一人暮らしの高齢者、高齢者世帯、日中一人暮らしの高齢者、認知症の方、障がい者、子育てをしている家庭、病気の方、その他心配な方を自治会長に報告してもらい、本人が見守りを希望するかどうかを自治会長と民生委員が訪問して確認した。

◆取組内容

- ・見守り対象者からは承諾書を、協力者（サポーター）からは誓約書を提出してもらっている。
- ・活動記録票を利用しており、毎月社会福祉協議会に提出している。  
原本は自治会長が保管し、コピーを社会福祉協議会で保管している。
- ・隣同士や協力者（サポーター）で電気点灯・雨戸やカーテンの開け閉め、車の様子等気にかけて見ている。
- ・回覧板は玄関に置いてこないで手渡しするようにしている。

◆注意点や工夫点

隣近所の付き合いを活かした見守りを行っているため、お互いに負担にならないように普段の生活からの見守りを心がけている。

◆今後の取組 課題として、見守りの取組みを若い世代に引き継いでいけるか。

◆組織名 上黒磯自治会

【黒磯地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 55 世帯 地区内人口：約 137 人

年齢別人口：0～14 歳：約 18 人（13.1%）

15～64 歳：約 79 人（57.7%）

65 歳以上：約 40 人（29.2%）

◆活動者 1 名（協力員）

◆活動主体 上黒磯自治会

◆活動種別 地域の高齢者世帯及び一人暮らしの心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内の高齢者世帯と一人暮らしの方

◆設立年月 平成 27 年 4 月

◆地域の課題

他の地域に比べて高齢者世帯や独居高齢者が多くはないが、1 人ひとりが生き甲斐を持って暮らすため、地域全体としての助け合い、支え合いが更に必要と思われる。

◆取り組むきっかけ

平成 27 年 4 月に自主防災組織を立ち上げ、高齢者世帯と独居高齢者宅に見守りを希望するか全世帯にアンケートをとることを説明し、当時の自治会長が見守り活動を行うことにした。

◆取組内容

- ・見守り者が不定期に車で気になる人の家の近くを通過して家の様子を外から伺う。
- ・総会資料の中に各戸の位置図を添付し、その中に災害時の要援護者がわかるよう記載している。
- ・防災と高齢者をセットにした行事を行っている。

◆注意点や工夫点 見守られている人が負担にならないよう気遣っている

◆今後の取組

- ・道路清掃、河川清掃等地域活動の場において健康状態や家族の様子等が自然と話題になるような雰囲気づくりをさらに努めていく。
- ・日常の場においても声掛けを積極的に行う。

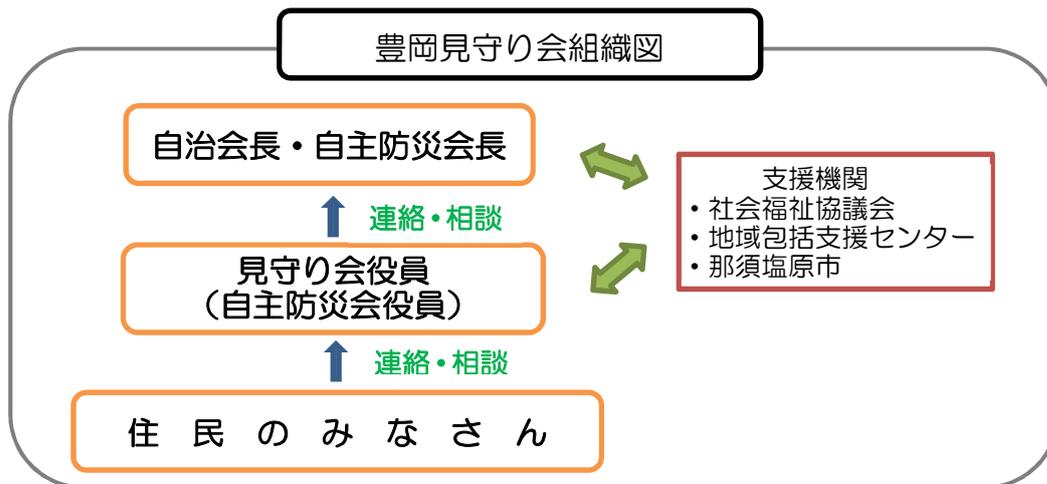
◆組織名 豊岡見守り会

【鍋掛地区】

◆地区の概要

世帯数：約 54 世帯 地区内人口：約 108 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 3 人 (2.8%)  
15～64 歳：約 54 人 (50%)  
65 歳以上：約 51 人 (47.2%)

◆活動者 7 名 (※内訳 代表：自治会長、見守り協力員6名)



◆活動主体 豊岡自治会

◆活動種別 自治会内の高齢者等心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内の高齢者等心配な方及び避難行動要支援者

◆設立年月 令和2年4月

◆地域の課題

自治会内の高齢者の増加や若い人の減少。

家族と同居の高齢者がほとんどだが、日中一人になる方が多い。

自治会内に別荘地があるが地域住民と関わりのない方たちが多く、また、関わりを拒否されることもある。どの家に誰が住んでいるのかなど分からないので、災害対応等に苦慮している。

◆取り組むきっかけ

豊岡自治会は那須水害での被災も経験しており、防災に関して危機感の高い地域である。自主防災組織の立ち上げを検討していたところに、地域包括支援センターと社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」と避難行動要支援者支援制度の説

明と取組の必要性や関連性の説明を受け、自治会として組織づくりを考え始めた。

また、自治会内の認知症高齢者の災害時救出訓練を、自治会、訪問診療所、居宅介護支援事業所、地域包括、社協と共同で実施したことで、災害時に対応できるのは日頃からの関係性や意識が大切と実感したため。

#### ◆取組内容

見守り協力員が対象者を日頃の生活の中で意識的に声かけをしたり、気にかける。全自治会員が自治会等の役員を担っており、地域行事も活発に行っている地域のため、住民が集まった際に見守りと報告会を行う。

自治会内に別荘地があり、地元住民と関わりのない対象者については、別荘地に居住する協力員に日頃からの見守りを行ってもらう。

#### ◆注意点や工夫点

自主防災組織と同一のメンバーにすることで、日頃から有事の際にも変わりなく活動できる体制にした。

普段から顔の見える関係の継続を意識し、協力しあいながら活動に取り組む。

#### ◆今後の取組

子どもの数も若い世代も少ない地域なので、家族内、住民同士で助け合いながら住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、住民同士連絡や相談を密にし合える関係性を継続していく。

「困った時はお互いさま」「ちょっと助けて」と気軽に、お互いに言えるよう、その意識を醸成していく。

#### ◆活動風景



◆組織名 なべかけ声かけ隊

【鍋掛地区】

◆地区の概要

世帯数：約 178 世帯 地区内人口：約 467 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 56 人（12.0%）  
15～64 歳：約 259 人（55.5%）  
65 歳以上：約 152 人（32.5%）

◆活動者 25 名（※内訳 代表：自主防災会長、見守り協力員 24 名）



◆活動主体 自主防災会及び自治会内の協力員

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内の独居高齢者及び高齢者のみの世帯、日中独居高齢者、障がい者など心配な方

◆設立年月 平成 29 年 4 月

◆地域の課題

地域内の高齢者独居・高齢者世帯の増加。  
高齢を理由に自治会を抜ける住民が増加し、人とのつながりの希薄化がみられる。  
自治会やコミュニティ活動が縮小しており、運動会や慰労会など住民が集まって一緒に何かをする機会が少なくなり関係性の希薄化が進んでいる。  
葬式等を組内で行くことも減り、隣近所と顔見知りになる機会がますます少なくなってきたり料理や文化の伝承ができていない。

◆取り組むきっかけ

設立時の自治会長が住民同士の関係性の希薄化や高齢化などを懸念し、自治会内でのつながりづくりや見守り活動について考えていた。そこに社会福祉協議会から地域住民助け合い事業の話があり、見守り活動に取り組むこととなった。

◆取組内容

対象者への日頃の見守り。(生きがいサロンや町内・庭で見かけた、声を掛けたなど)見守り報告会の実施(1回/年)。

◆注意点や工夫点

ご近所同士の付き合いを活かし、お互いに助け合う活動。  
高齢者のみだけでなく、あらゆる年代の心配な方や自治会未加入者へも目を配っている。

◆今後の取組

無理のない活動で“できることをできるときに”継続していきたい。

◆活動風景



◆組織名 樋沢自治会「見守り会」

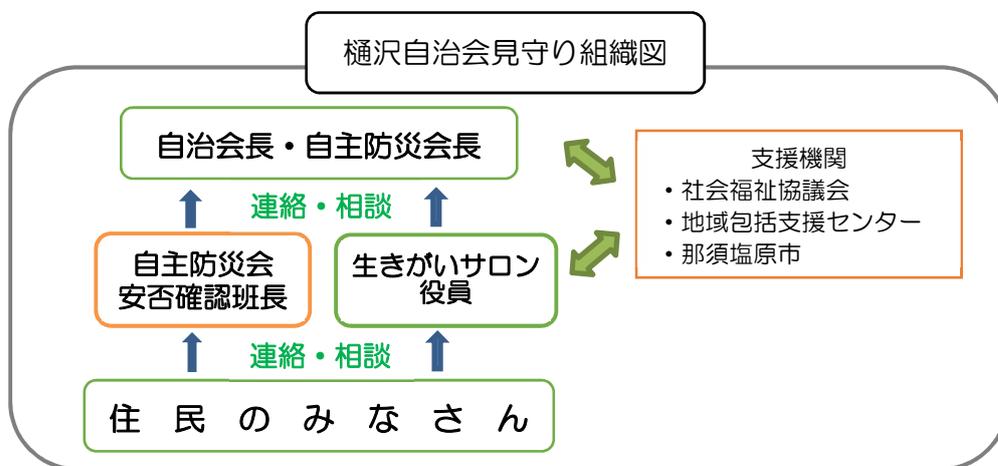
【鍋掛地区】

◆地区の概要

世帯数：約 70 世帯 地区内人口：約 203 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 20 人（9.9%）  
15～64 歳：約 126 人（62.0%）  
65 歳以上：約 57 人（28.1%）

◆活動者 10 名

（※内訳 見守り協力員：自治会長・自主防災会安否確認班長・生きがいサロン役員）



◆活動主体 樋沢自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 独居高齢者や高齢者世帯など地域の心配な方及び避難行動要支援者。

◆設立年月 令和2年4月

◆地域の課題

少子高齢化や子どもが地元に戻ってこないなど、独居高齢者や高齢者世帯の増加がみられる。

また子どもの数が減り育成会もなく、このまま過疎化が進めば地域の元気が失われると危惧している。

自治会としては、子どもが大きくなると自治会を抜けてしまう世帯も多く、新しく地域に住んだ方たちと自治会員とのつながりが少ないことも懸案事項である。

また、独居高齢者の安否確認や、運転免許を返納した場合の「足の問題」などは課題である。

#### ◆取り組むきっかけ

自治会として避難行動要支援者支援制度における要支援者の支援に取り組むこととなり、制度説明と地域住民助け合い事業の説明を社会福祉協議会から受けた。そこで非常時の支援と日頃の見守りを一体的に進めて行く必要性を認識し、見守り活動を開始することとなった。

#### ◆取組内容

自主防災会の安否確認班長がそのまま見守り協力員となり、自分の班の見守り対象者を日頃から何気なく見守ったり、声かけや訪問を行う。

全自治会員にも見守り活動について説明し、回覧板を回す時やご近所付き合いの中で気に掛けて見守ってもらう。

樋沢生きがいサロンは自治会員でなくても参加できるので、自治会未加入者も月に2回参加時に生きがいサロン役員が見守る。

#### ◆注意点や工夫点

以前から自主防災会が組織されており、その中で班ごとに「安否確認班長」が決められていた。その既存の組織を活用して、班ごとに心配な方を見守る仕組みを考えた。

自治会役員や班長が参加し、住宅地図を使いながら心配な方がどこに住んでいて、誰が見守るのかなどの可視化を行った。

ただ安否確認班長だけが見守るのではなく、ご近所付き合いや生きがいサロンなど、既存のつながりを活かして、日常生活の中で見守りができるよう仕組みを作った。

#### ◆今後の取組

地域の昔ながらのつながりを維持していくためにも、村づくりの活動や自治会事業等を引き続き積極的に行いながら、見守り活動の意識を住民にもってもらえるようその都度話をしていく。

#### ◆活動風景



◆組織名 望田自治会

【鍋掛地区】

◆地区の概要

世帯数：約 78 世帯 地区内人口：約 189 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 15 人 (7.9%)  
15～64 歳：約 106 人 (56.1%)  
65 歳以上：約 68 人 (36.0%)

◆活動者名 望田自治会地域住民

◆活動主体 望田自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方への見守り活動

◆対象者 自治会内の独居高齢者及び高齢者世帯、避難行動要支援者

◆設立年月 令和2年3月

◆地域の課題 独居、日中独居高齢者の増加、別荘地等自治会未加入者との関係性希薄

◆取り組むきっかけ

前自治会長が社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」の説明を受け、見守りを組織立てて行うのではなく、昔から続いているご近所同士のお付き合いを通して見守り合える方法を模索していた。その頃自治会の防災訓練でハザードマップを作成する予定があり、同時に見守りマップの作成も行うこととなった。

そこでつながりの「見える化」と地域住民へ「地域住民助け合い事業の説明」を行い活動開始に至った。

◆取組内容

すでに行っているご近所付き合いやおすそ分け、お茶のみなどの日頃の住民同士のつながりをそのまま続けながら、そこに「見守り」という意識をプラスして、何気なく見守っていく。

◆注意点や工夫点

昔ながらのご近所付き合いからつながりのある地域であったため、“普段の生活の中でできるときにできることを”を合言葉に、お茶のみや畑仕事をしながら、犬の散歩や買い物に行く途中で、生きがいサロンに参加しながらなど、日常生活の中

で意識的に「ながら見守り」を行ってもらえるよう、全住民へ協力を依頼した。

自治会未加入の別荘地もあるが、そこにも見守り開始の文書を配布して、周知を図った。

心配な人や避難行動要支援者、人と人とのつながりなどをマップに落とし込み、住民同士の日頃のつながりを可視化した。活動開始前に、心配な人が誰ともつながりがなく取り残されていないか確認ができ、昔ながらのお付き合いを続けながらお互いがお互いに見守っていくことになった。

#### ◆今後の取組

心配な人が災害時にも同様に心配な人になるため、いざという時に助け合えるには普段からのつながりが大切。

今後も住民同士で積極的に声を掛け合いながら、どこに心配な人がいるのかを定期的に把握していく。

#### ◆活動風景



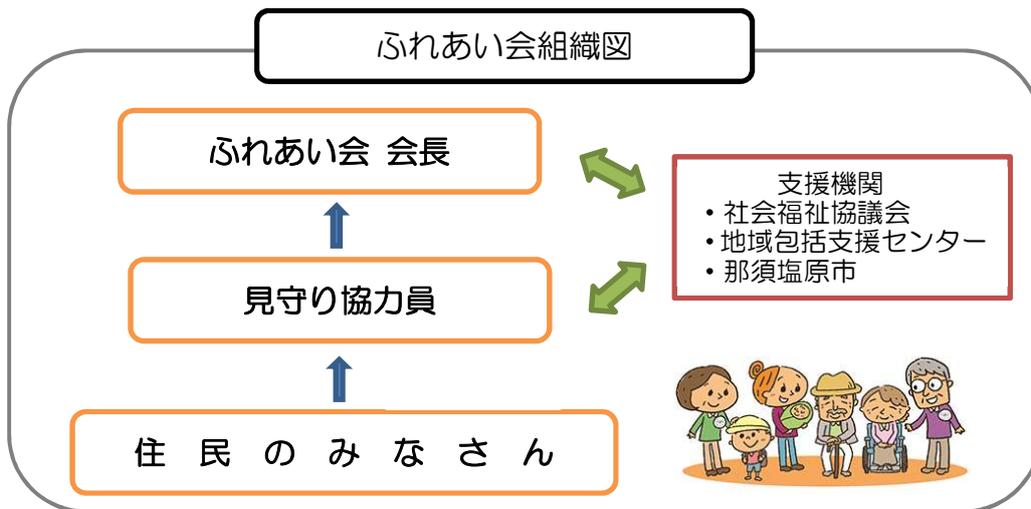
◆組織名 新堀自治会「ふれあい会」

【鍋掛地区】

◆地区の概要

世帯数：約 26 世帯 地区内人口：約 71 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 4 人 (5.6%)  
15～64 歳：約 42 人 (59.2%)  
65 歳以上：約 25 人 (35.2%)

◆活動者 4 名 (※内訳 代表：自治会長、見守り協力員 3 名)



◆活動主体 新堀自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内高齢者や心配な方、避難行動要支援者

◆設立年月 令和2年4月

◆地域の課題 地域内の高齢化・子どもの減少、自治会組織後継者不足・自治会存続への危惧

◆取り組むきっかけ

自治会としては小規模で昔ながらの付き合いもあり、住民同士が顔の見える関係ではあるが、今いる住民だけで自治会組織が機能し続けられるか危惧があり、お互いに助け合える地域づくりを自治会長が考えていた。そこに社会福祉協議会から「地域住民助け合い事業」の説明があり、見守り活動を通して今の時代に合ったつながりづくりへの取り組みを開始した。

#### ◆取組内容

日頃の生活の中や、1～2ヶ月に1回の訪問、自治会員の多くが参加する地域行事の際や生きがいサロンに参加した時にコミュニケーションを取りながら見守る。

#### ◆注意点や工夫点

見守り協力員は配置したが、日中仕事をしている方もいるなど協力員の負担軽減を考え、住民同士、ご近所同士の声かけ・見守りを一緒に行うよう全住民に周知した。また、自治会内の多くの高齢者が参加する生きがいサロンでの見守り協力員を1人置き、わざわざ見守りをするのではなく、日常生活の中で見守りができるようにした。

誰が心配な人なのかを明確にするために、福祉マップを作成した。また、誰が誰を見守るのかの把握と見守られる人への説明も兼ねて、会長と見守り協力員で自宅へ個別訪問した。

#### ◆今後の取組

昔ながらのつながりを維持し、“できることをできるときに”無理のない活動を行う。

#### ◆活動風景

全自治会員への事業説明、実施内容の周知風景



◆組織名 「駅前助け合いたい」

【東那須野地区】

◆地区の概要

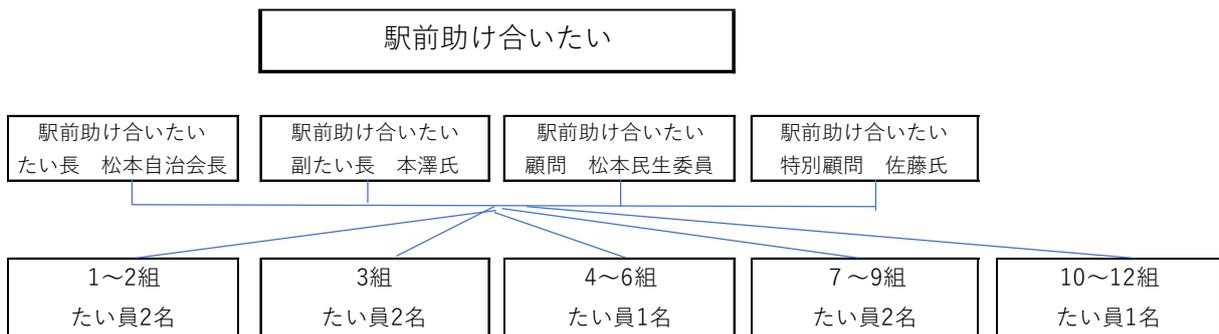
世帯数：約 153 世帯 地区内人口：約 373 人

年齢別人口：0～14 歳：約 26 人（7.0%）

15～64 歳：約 180 人（48.3%）

65 歳以上：約 167 人（44.8%）

◆活動者 12 名



\*たい長、副たい長、特別顧問は活動者として見守り活動を行っている。

◆活動主体 東那須野地区自治会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 敬老会招待者及び避難行動要支援者

◆設立年月 平成 28 年 4 月

◆地域の課題

地域内の高齢化により、独居・高齢世帯が多く高齢者を取り巻く環境が悪化している。店舗廃業による買い物難民（車を利用できない高齢者が多い）、関係の希薄化もある。交通量の多い 4 号線と JR 宇都宮線に挟まれている自治会なので、移動が大変であり市内循環バスの乗り口も踏切を渡った駅西口にあるため高齢者には負担が大きい。（駅東口にエレベーターが最近設置されたが JR 内に途中で休むベンチが無い）。消防団の団員不足が続き新規団員加入が何年も無く存続の危機に立っている、火事、震災その他災害などに出動が出来ない可能性が出てきた。

◆取り組むきっかけ

自治会内で「孤独死」が出た事により平成 27 年 3 月から、月 1 回の地域ケア会議を重ね自治会内に「孤独死を出さない」を目標に平成 28 年 4 月に発足をした。

#### ◆取組内容

敬老会招待者及び避難行動要支援者、心配な方を見守り、健康状態や安否確認を行っている。活動報告会は年4回実施し、協力員同士情報交換を行い、問題発生時は包括、社協へ相談するなどの対応をしている。

その他、見守り対象者の誕生日には、プレゼントにお花を渡しながら体調や近況の確認も行っている。

「買い物対策事業」として毎週木曜日に自治公民館前で、JA西口産直の協力のもと、新鮮な野菜、卵や惣菜、生花等を購入できる出張販売を行っている。

4月～11月には、自治会長が毎週カフェを開き、買い物の後に休憩ができる場を作っている。休息しながら近況など話し合っているため、情報交換の場にもなっている。この場の会話から、転倒して動けず日常生活も出来なくなってしまった80代女性のケアを、包括に連絡を入れ直ぐに対応してもらえた案件もあり、カフェの中でも顔の見える関係が出来てきている。

#### ◆注意点や工夫点

地区内の配慮が必要な人に対する事例検討会（地域個別ケア会議を行う）

#### ◆今後の取組

従来の見守り活動を続けて行くと同時に「子供を見守るまち宣言」をして、共生社会に向けた働きかけを地域で行っていく。

#### ◆活動風景



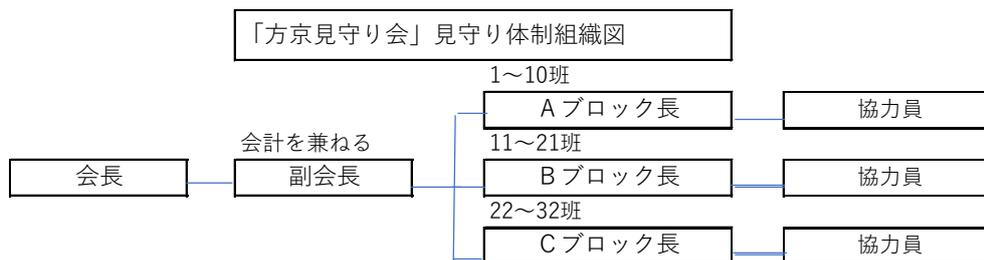
◆組織名 方京見守り会

【東那須野地区】

◆地区の概要

世帯数：約 813 世帯 地区内人口：約 1,995 人  
年齢別人口：0～14歳：約 368人（18.4%）  
15～64歳：約 1,219人（61.6%）  
65歳以上：約 408人（20.5%）

◆活動者 37名（Aブロック8名、Bブロック13名、Cブロック16名）



\*自治会の班をA、B、Cブロックに分けて活動している。

◆活動主体 方京見守り会

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 方京自治会加入世帯への全戸アンケートによる見守り希望者を対象とする。  
自治会内高齢者及び心配な方（若年層も対象、避難行動要支援者含む）

◆設立年月 平成30年4月

◆地域の課題

大原間小学校周辺の建売住宅54戸に新住民が入居、新たに27戸の募集が始まり、既に自治会加入世帯が510戸を超える。3年前より約60戸増え、新たに2、3班を増やすよう検討をしている。今後は見守り対象者、避難行動要支援者にも変化がでる事を踏まえて自治会役員と対応を考えている。那須塩原駅が近く徒歩圏でもあり都内への勤務者も多く、アパート住人と外国人も多く居住している。駅西口に近く駐車場も多く幹線道路が、自治会を分断して抜けているうえに2車線のため交通量も非常に多い。高齢者や子供の道路横断がかなり危険である。

◆取り組むきっかけ

方京自治会・方京防災会がめざす「安心、安全な地域づくり」と社会福祉協議会による「地域住民助け合い事業」が連携して取り組みを始め、方京自治会加入の全世帯

に「自主防災会・地域住民助け合い事業」のアンケート調査を実施した。その結果を基に見守り希望者 66 人宅へ民生委員と社協、包括で訪問し、同意書を取りまとめた。自主防災会と連携して活動する。「見守り等の支援活動」に賛同するボランティア協力者も約 60 名になり組織化に向けて動くようになった。

#### ◆取組内容

アンケート調査結果を基に、見守り対象者を「緊急時」「訪問」「外から」に分けてから 32 班を 3 ブロックに分けた（見守り組織図参照）ブロック毎の班長会議は順次開催している。訪問による安否確認と外からによる見守りを、月 1 回以上の都合の良い日に行っている。各班長は支援者 1 戸毎のファイルを保管している。災害発生時の避難手助けは自主防災会と連携する。ボランティア協力者と見守り対象者が近隣の場合が理想だが、柔軟に対応して行く。

#### ◆注意点や工夫点

外からの見守り、訪問の見守り共に信頼関係を築くまでの期間がかかってしまう事例が多く、精神的に参ってしまう協力者に対してのサポートをどうするかが議題にあがった。

1 人の例として時間をかけて外からの見守りが、訪問による見守りになった事もあり時間をかけて活動を続ける必要性を協力員が語ってくれ、会議などでもその点を留意していく。他の地区で誕生日プレゼントを渡しているのを取り入れ、訪問の人のみに事前に本人の希望の品を聞いて渡したところ大好評で良い信頼関係が築けている。ボランティア協力者が見守り活動を続けて行ける環境作りも必要である。

#### ◆今後の取組

数年後の見守り協力者の高齢化を見据えて、新たな協力者の人員確保を進める。見守り希望者と協力者とのバランスをどう保って行くかを討議していく。特に 4 班 5 班の高齢者率が高いので、近隣で見守りができる人を探していく。（募集では無く、依頼できそうな人を選んでいく事も考えている）

自主防災会の緊急連絡網を見守り組織に利用し、緊急時の避難行動要支援者に対応していく。（緊急時の連絡先が未記入の者が半分いる為に、班内のみ利用だった緊急連絡網のデータを見守り会班長まで利用し、いざという時に駆けつける人を決めて行く）

今後は班長 32 人の中から 6 名選出して役員 4 名計 10 名で、防災拠点になる公民館建設の検討会も立ち上げ、緊急時の避難行動要支援者と見守り対象者の対応を検討して行く。

#### ◆活動風景



◆組織名 「沓掛地区助け合いの会」

【東那須野地区】

◆地区の概要

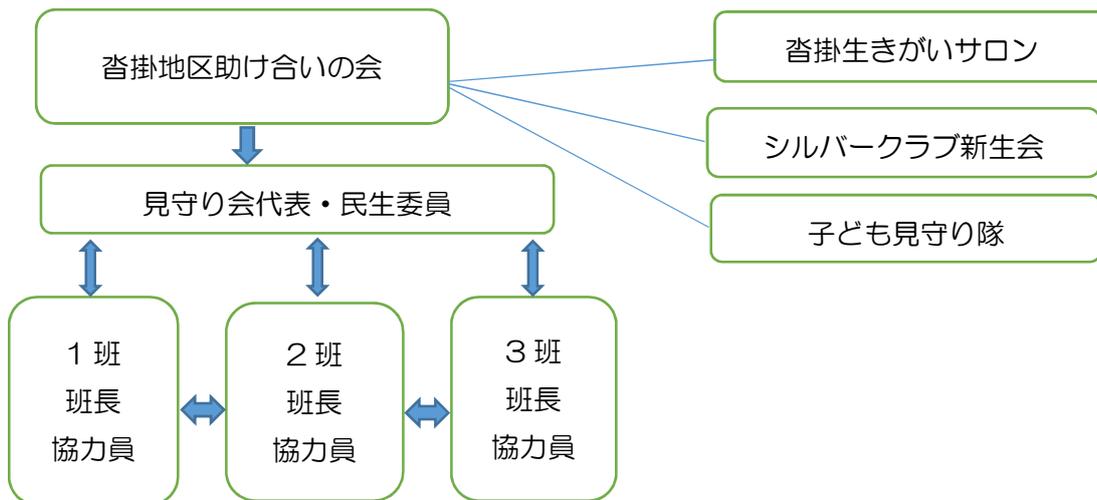
世帯数：約 536 世帯 地区内人口：約 1,227 人

年齢別人口： 0～14 歳：約 235 人（18.4%）

15～64 歳：約 836 人（65.5%）

65 歳以上：約 206 人（16.1%）

◆活動者 25 名（見守り会代表 1 名、班長 3 名、民生委員 2 名、協力員 19 名）



\* ボランティアを主体とし既存の組織、団体と協力し分担して助け合い活動を行う

◆活動主体 沓掛地区助け合いの会

◆活動種別 心配な方、高齢者、子どもの見守り活動

◆対象者 生きがいサロン参加者、シルバークラブ新生会、子ども、心配な方

◆設立年月 平成 30 年 1 月

◆地域の課題

那須塩原駅に近い地域で新住民が増えているが、自治会への加入が少なく横のつながりが薄くなっているため、高齢者を取り巻く環境も厳しくなっている（地域内の高齢化により独居・高齢者のみの世帯も増えた）。東日本大震災以降に福島県からの移住者世帯も増え、移住者同士でコミュニティを作り自治会とは距離を置いている世帯もある。

区画整理事業で自治会内に 2 車線道路ができ朝晩の交通量が急速に増し、小学生の登校時には、子ども見守り隊が交代で毎朝交差点での見守りを続けている。県に信号機の申請をしているが当面は設置待ちである。また、新幹線の基地局を大幅に

拡大する計画があり、今後多くの人の流入や工事等のための交通量が増えるなどの心配も抱えている。

#### ◆取り組むきっかけ

自治会内には独居高齢者世帯が多く、以前から民生委員を中心とした見守り活動が始められていた。その後シルバークラブ新生会や生きがいサロン参加者、子ども見守り隊などが地域全体の見守り活動に取り組み、地域住民助け合い事業を開始した。

#### ◆取組内容

シルバークラブ新生会、生きがいサロン、自主防災会、子ども見守り隊などの団体と連携し「できることをできるときに」する活動で、家の外からの見守り、訪問による安否確認を行っている。

また月2回の生きがいサロン後に、参加者同士の情報交換も行っている。

#### ◆注意点や工夫点

協力員同士の士気が下がらないように、話し合いの場をもって何でも相談ができる雰囲気を作る。活動がマンネリ化しないように、外部からの意見も求めて検討をする。

#### ◆今後の取組

自治会住民の半数以上が新住民となり、以前のような顔の見える関係性が薄れてきている。そのような中でこの活動を続けている助け合いの会メンバーの高齢化もあり、今後は新住民も旧住民も一緒に見守り活動を続けていけるような地域を作っていきたい。

#### ◆活動風景



◆組織名 下の内見守り隊

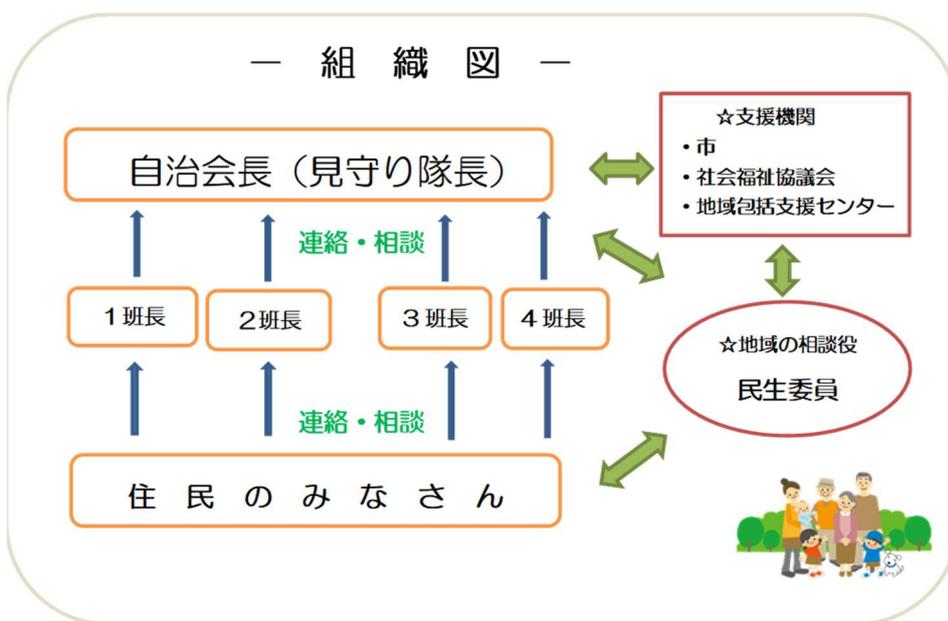
【高林地区】

◆地区の概要

世帯数：約 54 世帯 地区内人口：約 185 人  
年齢別人口：0～14 歳：約 16 人（ 8.6 %）  
15～64 歳：約 106 人（ 57.3 %）  
65 歳以上：約 63 人（ 34.1 %）

◆活動者 自治会全員参加

◆活動主体 下の内自治会



◆活動種別 地域の心配な独居高齢者を見守る

◆対象者 地域の心配な独居高齢者

◆設立年月 平成 30 年 10 月

◆地域の課題 人口減少、高齢化

◆取り組むきっかけ

心配な高齢者 3 名。地域の繋がりが強い地区なので、急に見守りが必要だとは思わないが、10 年後 20 年後の先は分からず、限界集落になりかねないと設立時の自治会長が危機感を持っていたため始まった。

◆取組内容

回覧板を届ける時に安否確認をする。地域全員参加の見守り活動

◆注意点や工夫点

自治会全体で集まれるような行事を維持していく。

毎年地域福祉活動補助金事業で年に1回の全戸参加の交流会を行い、見守り活動について確認をする。

◆今後の取組

見守り対象者、心配な人を把握できるように心がける。

◆活動風景



◆組織名 石林自治会

◆地区の概要 H31.4月現在

※自治会未加入も含む

世帯数：約 879 世帯 地区内人口：2,137 人

年齢別人口：0～14 歳：260 人（12.2%）

15～64 歳：1,335 人（62.5%）

65 歳以上：542 人（25.4%）

◆活動者 23 名

※内訳：自治会長、副会長、公民館長、副公民館長・民生委員 3 名・文化部員 4 名・福祉部員 2 名(役員 13 名) ・1 ブロック 10 名

◆活動主体 石林自治会・福祉部・文化部・民生委員 等

◆活動種別 げんきかい(サロン)、給食サービス・安否確認

◆対象者 高齢者(80歳以上)、一人暮らしの高齢者、障がい者

※自治会未加入者も対象

◆設立年月

給食サービス：平成 19 年 4 月

げんきかい：平成 27 年 4 月

◆地域の課題 地域内の高齢化

◆取り組むきっかけ

地域から孤立する高齢者や障がい者がいるので、なくそうとの思いから取り組みを始めた。

◆取組内容

給食サービス：

当初は春と秋の 2 回だったが、20 年度から年 4 回になった。

高齢者(80 歳以上)、一人暮らしの高齢者、障がい者宅へ手作りの昼食を届ける。

お宅を訪問して、お話しつつ様子を伺う。

げんきかい：

年 4 回実施している。

健康体操とグラウンドゴルフは毎回実施している。

その他、寄せ植えや絵手紙などを行い、茶話会をしている。

◆注意点や工夫点

- ・友愛訪問前に回覧で毎回連絡をしている。
- ・毎回訪問後に全員で反省会をして、情報共有を図っている。

◆今後の取組

伺った時、なかなか長く話ができないので、困ったことなどありそうな場合は、後で民生委員などに伺ってもらうようにしていきたい。

◆活動風景

友愛訪問の様子



げんきかいの様子



◆組織名 西三島自治会 生きがいサロン

【西那須野地区】

◆地区の概要（平成 30 年度）

※自治会未加入も含む

世帯数：1611 世帯 地区内人口：3806 人

年齢別人口：0～14 歳：602 人（15.8%）

15～64 歳：2393 人（62.9%）

65 歳以上：811 人（21.3%）

◆活動者 高齢者・福祉ボランティア・自治会役員・福祉委員等、含め平均 40～45 名

◆活動主体 西三島自治会 福祉部

◆活動種別 高齢者が気軽に集まれる交流の場・仲間づくりの場の提供活動

◆対象者 自治会内の概ね 65 歳以上の一人暮らし、又日中高齢者夫婦のみで暮らす方

◆設立年月 1996 年（平成 8 年）6 月 17 日より高齢者 15 人狩野宿（旧）でスタート

◆地域の課題 一人暮らし高齢者・高齢ご夫婦のみ世帯の増加、車に頼る移動手段

◆取り組むきっかけ

1996 年（平成 7 年）10 月に自治会役員の仲間で、一人暮らしの高齢者仲間と近くの温泉保養に出かけた事で、当地区にもたくさんの一人暮らしや、日中、高齢ご夫婦のみが家に閉じこもっているよねという事になり、その人たちと、気軽に交流し、いきいきとした生活を送れるよう支援していこうという事になり翌年平成 8 年 6 月からスタートする。

◆取組内容

基本的に毎月第 1 と第 3 水曜日の午前 10 時から昼食終了まで、高齢者とスタッフが公民館に集まって、おしゃべり、手芸、講話、演芸鑑賞など楽しく過ごします。

#### ◆注意点や工夫点

- 送迎が必要な方は男性の福祉ボランティアにより送迎をしています。
- 昼食は献立づくり、調理、盛り付けなど毎回女性の福祉ボランティア10名による季節感のある手作り料理を提供しています。
- 民生委員6名も毎回参加し、軽い体操指導や接待、おしゃべりなどで、高齢者の様態を観察しています。
- 各班に1名「福祉委員」がいて、当番で年に1回生きがいサロンに参加してもらうようにしています。生きがいサロンを実際に体験することにより、自治会活動の実情や問題点などを理解して頂き、今後の在り方を考える一助にもらうことを狙っています。
- 高齢者（サロンのメンバー）だけでなく、スタッフの人たちにとっても良い居場所になっており、楽しめる場になっています。

#### ◆今後の取組

現在と同じく、月2回の開催を基本に内容もマンネリ化にならないよう工夫を凝らしながら、参加者を増やしていきたいと思えます。

#### ◆活動風景



◆組織名 西三島自治会 子育てサロン

【西那須野地区】

◆地区の概要（平成 30 年度）

※自治会未加入も含む

世帯数：1611 世帯 地区内人口：3806 人

年齢別人口：0～14 歳：602 人（15.8%）

15～64 歳：2393 人（62.9%）

65 歳以上：811 人（21.3%）

◆活動者 主に幼稚園入園前の幼児とその親とサポートするスタッフ含め 1 回 28 名前後

◆活動主体 西三島自治会 生活部

◆活動種別 子育て中の保護者やそのお子さまが同じ仲間と交流できる憩いの場での提供。

◆対象者 主に幼稚園入園前の幼児とその保護者

◆設立年月 2008 年（平成 20 年）2 月 21 日（木）

◆地域の課題 高齢者の一人暮らし、高齢ご夫婦のみ世帯の増加、車に頼る移動手段

◆取り組むきっかけ

高齢者の向けの生きがいサロンがあるのに、子育ての悩みを相談できる保護者同士の仲間づくりとお子さまの遊び場を提供するという目的でスタートしました。

◆取組内容

幼児（主に幼稚園入園前）とその親が当公民館に集うサロンを開催しています。ここに集う親や子ども達、そして当サロンをサポートするスタッフ（年輩の方々）との親睦をはかる「ひろば」として、毎月 2 回木曜日に開催しています。

ここに集う皆さんが楽しい思い出作りとして、いろいろと思考を凝らしながら、お迎えしています。たとえば、夏の暑いときには、外でビニール製のプールを設置して、水遊びに興じます。そのほかにも、紙芝居の読み聞かせなども行い、小さい子どもから、サポートする年配の方々との楽しいひと時を過ごせるようにしています。子どもたちの遊び道具も用意してあり、子どもたち同士の遊びや、また、ちょっとした喫茶コーナーでの小さい子どもを持つ親同士の会話など、ちょっとした気配りもしています。とにかく、ここに集まれば、子育ての悩みごとにも相談にのる人生経験豊かなスタッフもいて、楽しいひと時を過ごせるよう皆が協力し合えるように行っています。

◆注意点や工夫点

12月には、「お楽しみ会」として、クリスマス会を行います。このクリスマス会では、プレゼントを用意して、子どもたちの夢を持たせる工夫をしています。3月には、入園するためにサロンから去るお子さんもいたりするので、同様のお楽しみ会を開催します。

◆今後の取組

現在と同じく、月2回の開催を基本に内容もマンネリ化にならないよう工夫を凝らしながら活動をしていきたいと思えます。

◆活動風景

サロンの様子



クリスマス会



人形劇



おばーちゃんところ丸と交流会



◆組織名 西三島自治会 助け合いの会

【西那須野地区】

◆地区の概要（平成 30 年度）

※自治会未加入も含む

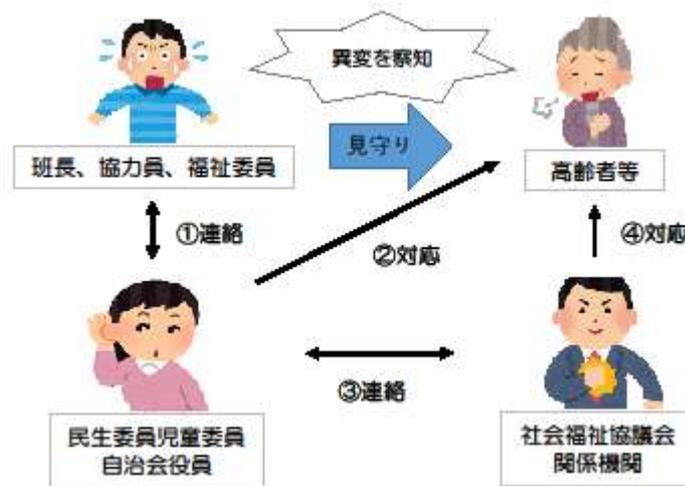
世帯数：1611 世帯 地区内人口：3806 人

年齢別人口：0～14 歳：602 人（15.8%）

15～64 歳：2393 人（62.9%）

65 歳以上：811 人（21.3%）

◆活動者 自治会役員、民生委員児童委員、班長、福祉委員、対象者のご近所の方



◆活動主体 西三島自治会 助け合いの会

◆活動種別 当地区内の高齢者の見守り活動

◆対象者 概ね 75 歳以上で一人暮らしや日中高齢者夫婦で見守り必要及び希望者  
（設立時 72 名の希望者を 35 名の見守り委員でスタート）

◆設立年月 平成 27（2015）年 10 月 3 日

◆地域の課題 高齢者の一人暮らし、高齢ご夫婦のみ世帯の増加、車に頼る移動手段

◆取り組むきっかけ

私たちが暮らす地域には、高齢者や障がいを持つ方、子育て中のお母さん方など、さまざまな人がいます。この中には、悩みを抱えていても支援を発信できない人がいます。そこで、西三島地域全体で互いに支え合う見守りを必要としている人の見守りネットワーク「助け合いの会」を発足させました。

#### ◆取組内容

見守り協力員は、班長、福祉委員、民生委員・児童委員、自治会役員、対象者のご近所の方で構成し、班内の見守りを必要としている人を把握して、見守ります。具体的には次のような役割（見守り）を行います。

- ・外からの見守り
- ・声かけ
- ・緊急時の連絡通報
- ・その他（簡易な支援など）
- ・活動記録票の記入・提出（協力員→班長→公民館）

#### ◆注意点や工夫点

本会は、住民相互の信頼関係にもとづく活動であるため、不測の事故に対する責任回避の承諾書や協力員の知り得た情報の守秘義務の誓約書の提出なども行っています。

令和2（2020）年1月15日月現在、28名の高齢者を28名の協力員で見守り行っています。（1人の方を3人で見守りされている方たちもいます。）

見守られている方から、たくさんの感謝のお言葉を頂いています。

中には、外からの見守りだけでなく、ゴミ出し、買い物や病院の付き添いなど、家族的な交流をされている方もおられ、この会を発足して良かったと感じています。

#### ◆今後の取組

誰もが住み慣れた地域で、安心して自立した生活を送れるように、地域全体で見守り、支え合う関係づくりを今後も進めていきます。

#### ◆活動風景

写真は、会津若松市社会福祉協議会様との情報交換会での風景です。

情報交換



会津の皆さま



◆組織名 西三島自治会 いきいき百歳体操

【西那須野地区】

◆地区の概要（平成30年度現在）

※自治会未加入も含む

世帯数：1611世帯 地区内人口：3806人

年齢別人口：0～14歳：602人（15.8%）

15～64歳：2393人（62.9%）

65歳以上：811人（21.3%）

◆活動者 毎回平均45名

◆活動主体 西三島自治会（那須塩原市高齢福祉課・地域包括支援センターが支援）

◆活動種別 地域の高齢者を中心に介護予防と交流の場提供活動

◆対象者 自治会内の概ね65歳以上の高齢者男女

◆設立年月 2017年5月18日より毎週金曜日10：00～11：00（年中無休）

◆地域の課題 一人暮らし高齢者・高齢ご夫婦のみ世帯の増加、車に頼る移動手段

◆取り組むきっかけ

元気なまちづくりと、健康寿命延伸に向けた事業の一環として、「高齢者ができる限り要介護状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送れるように支援する」ことを目的として、市の高齢福祉課と相談して市内でいち早くスタートする。

◆取組内容

高知市の理学療法士が開発した、筋力運動にバランスと柔軟性をプラスした体操であり、この内容のDVDをモニターで流し一緒に体操する内容です。

椅子を使うことによって、体力のない方でもできるような運動です。日常生活で必要とされる動作、それらに必要な筋力をアップすることになります。負荷を増やすために、おもりを手首と足首につけて運動することで、筋力とバランス能力を高めます。

◆注意点や工夫点

90歳以上の方や持病の方など幅広く参加されているため、血圧計の購入などにより開始前の測定を遵守していただき、又万が一にも備え、AEDも設置しています。

また、体操が始まる前に自治会長からのいろんな情報提供だったり、体操終了後の健康に関するお話をしたり、隣同士、知り合いになり交流や支えあう場にもなっています。

◆今後の取り組み

基本的には、現在のやり方を続け、節目（200回、300回・・・）にはイベントなども企画し継続して盛り上げていこうと思います。

◆活動風景

出席簿（毎週 40 名を超える参加者）



手首に重りを付けて腕の筋力アップ



手首足首に重りを付けて下半身筋力アップ



4 秒かけて立ち上がる



◆組織名 畑下自治会地域住民助け合いの会

【塩原地区】

◆地区の概要

※自治会未加入も含む

世帯数：約 80 世帯 地区内人口：約 150 人

年齢別人口： 0～14 歳：約 10 人（6.7%）

15～64 歳：約 70 人（46.6%）

65 歳以上：約 70 人（46.6%）

◆活動者 22 名（代表：自治会長、班長、山ゆりの会、消防団）

◆活動主体 畑下自治会（社会福祉協議会地域支え合い推進員が支援）

◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り活動

◆対象者 自治会内高齢独居者、障害者 13 名

◆設立年月 平成 28 年 2 月

◆地域の課題 地域内の少子高齢化と人口減少

◆取り組むきっかけ

畑下自治会では、自主防災単独の取り組みから、自主防災と福祉の「地域住民助け合い事業」を兼ねた組織づくりをして、自治会全体の取り組みとして認識していく意向があったため、社会福祉協議会「地域住民助け合い事業」における「地域支え合い推進員」の地域づくり活動支援を利用して取り組むこととした

◆取組内容

定例会議（年 2 回、5 月と 12 月）を開催し、高齢者及び心配な方の見守り（回覧板を置いていきながらや家の前を通りながらの「ながら見守り」）活動やちょっとした困りごとの連絡・相談、困難ケースなどの連絡・相談を行っている

年に 1 回は、自治防災活動に合わせての安否確認、地区内巡回パトロールを行うこの活動の対象者は、見守り対象者だけではなく、元気な高齢者も含んでいる

畑下山ゆりの会事業（サロンを含む）の中で地域支え合い推進員及び支援員と情報の共有をしている

◆注意点や工夫点

サロンに出席してもらって、近況や困り事などを話せるように働きかけている特に、ひきこもり気味な高齢者に対してサロンに出てくるよう働きかけている

◆今後の取組

基本的には現在と同じく、年 2 回の定例会議を中心とした見守り活動を行うサロンで作った物を高齢者や心配な方に見守りを兼ねて配布していきたい

◆活動風景



- ◆組織名 門前自治会地域住民助け合いの会 【塩原地区】
- ◆地区の概要  
世帯数：約 102 世帯 地区内人口：約 191 人  
年齢別人口： 0～14 歳：約 7 人（3.7%）  
15～64 歳：約 94 人（49.2%）  
65 歳以上：約 88 人（46.1%）
- ◆活動者 22 名  
※内訳：自治会長、副自治会長（2名）、前自治会長、地区民生委員・  
児童委員、地区在住社会福祉協議会職員、社会福祉協議会支  
援員、地域支え合い推進員、地域住民
- ◆活動主体 門前自治会（社会福祉協議会地域支え合い推進員が支援）
- ◆活動種別 地域の高齢者の見守り活動
- ◆対象者 自治会内 70 歳以上の高齢者 31 名
- ◆設立年月 平成 28 年 9 月
- ◆地域の課題 地域内の少子高齢化と人口減少
- ◆取り組むきっかけ  
社会福祉協議会「地域住民助け合い事業」における「地域支え合い推進員」の地  
域づくり活動支援を利用して取り組むこととした
- ◆取組内容  
定例会議を開催し、高齢者の見守り（回覧板を置いていきながらや家の前を通り  
ながらの「ながら見守り」）活動やちょっとした困りごとの連絡・相談、困難ケース  
の会議を開催している。  
また、生きがいサロンの活動支援と参加による聞き取りを行い、近況や困り事な  
どを話せるように働きかけている
- ◆注意点や工夫点  
月 2 回開催の生きがいサロンを活用して、近況の確認や困りごとなどを把握して  
いる
- ◆今後の取組  
基本的には現在と同じく、定例会議を中心とした見守り活動を行う

◆組織名 中塩原自治会

【塩原地区】

◆地区の概要

世帯数：約 145 世帯 地区内人口：約 314 人

年齢別人口：0～14 歳：約 17 人（5.4%）

15～64 歳：約 128 人（40.8%）

65 歳以上：約 160 人（51.0%）

◆活動者 6名

※内訳：自治会長、副自治会長、前自治会長、元自治会長、サロン会長、地区民生委員・児童委員

◆活動主体 中塩原自治会

◆活動種別 地域の高齢者・心配な人の見守り活動

◆対象者 自治会内住民 17 名

（75 歳以上の一人暮らしと高齢者世帯を中心とするが、その他生活が心配と思われる人）

◆設立年月 平成 27 年 9 月

◆地域の課題 地域内の少子高齢化と人口減少

◆取り組むきっかけ

社会福祉協議会「地域住民助け合い事業」における「地域支え合い推進員」の地域づくり活動支援を利用して取り組むこととした

◆取組内容

定例会議（年 1 回）を開催し、地域の高齢者と心配な方への普段の生活の中での見守り活動やちょっとした困りごとの連絡・相談、生きがいサロンや地域行事へ地域支え合い推進員が参加して、近況や困りごとなどを話せるように働きかけている

◆注意点や工夫点

月 2 回開催の生きがいサロンを活用して、近況の確認や困りごとなどを把握している

◆今後の取組

基本的には現在と同じく、定例会議を中心とした見守り活動を行う

◆組織名 上塩原自治会

【塩原地区】

◆地区の概要

世帯数：約 97 世帯 地区内人口：約 197 人

年齢別人口：0～14 歳：約 10 人（5.1%）

15～64 歳：約 73 人（37.1%）

65 歳以上：約 115 人（58.4%）

◆活動者 11 名

※内訳：自治会長、地区民生委員・児童委員、見守り隊長、協力員

◆活動主体 上塩原自治会

◆活動種別 地域の高齢者・心配な人の見守り活動

◆対象者 自治会内住民（14 名）

◆設立年月 平成 28 年 6 月

◆地域の課題 地域内の少子高齢化と人口減少

◆取り組むきっかけ

社会福祉協議会「地域住民助け合い事業」における「地域支え合い推進員」の地域づくり活動支援を利用して取り組むこととした

◆取組内容

定例会議（2か月に1回）を開催し、見守り対象者への普段の生活の中での見守り活動や生きがいサロン・百歳体操での見守り

◆注意点や工夫点

月2回土曜日開催のサロンや毎週土曜日開催の百歳体操に参加してもらって、安否確認やひきこもり予防を行っている

◆今後の取組

基本的には現在と同じく、定例会議を中心とした見守り活動を行う

- ◆組織名 関谷上町自治会・見守り隊 【箒根地区】
- ◆地区の概要  
 世帯数：約 131 世帯 地区内人口：約 339 人  
 年齢別人口：0～14 歳：約 41 人（12.1%）  
 15～64 歳：約 184 人（54.3%）  
 65 歳以上：約 104 人（30.7%）
- ◆活動者 18 名  
 ※内訳 会長:自治会長、副会長:1 名、活動協力員:5 人、各班長:11 人
- ◆活動主体 関谷上町自治会
- ◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り
- ◆対象者 自治会内の高齢者等世帯（障害者等も含む）、日中高齢世帯、自治会未加入者世帯
- ◆設立年月 平成 30 年 3 月
- ◆地域の課題 地域内の高齢化
- ◆取り組むきっかけ  
 設立時の自治会長が、孤独死、健康悪化などの早期発見、防災・防犯の早期対応のため「地域の見守り」について、必要性を感じ、組織作りを行った
- ◆取組内容  
 定期訪問はせずに、協力員による離れた場所からの意識的な見守りや、班長による班内のお付き合い（回覧板、集金等）での日常的な関わりの中での見守りを行っている。  
 令和元年 10 月の台風 19 号の際は、安全確認がとれた後、高齢者世帯のみ安否確認の訪問を実施。災害時には、自主防災会と連携し安否確認を行っている。  
 問題発生時には、地域包括支援センター、民児委員、社会福祉協議会等に繋ぎ、連携を取っている。  
 見守り隊は、義務や責任はなく、地域の善意で活動している。
- ◆注意点や工夫点  
 見守り隊と班長が連携して行っている。（災害時には自主防災会とも連携）  
 組織内で情報共有している。  
 見守り隊員が老人クラブに加入し情報収集に努めている。

◆今後の取組

引き続き、年数回の定例会で情報交換や対策の検討、勉強会（非常時の動き方等）を実施しながら継続していきたい。

見守り隊副会長が自治会会議に参加し対象者の把握もしていきたい。

離れた場所からの見守りだと、対象者が実施されているのか不安になるので、年1回、各戸訪問を予定。

- ◆組織名 ①宇都野若林自治会 【箒根地区】  
②宇都野原坪自治会  
③宇都野根古屋自治会  
④宇都野町井自治会・見守り隊

◆地区の概要

世帯数：約 158 世帯 地区内人口：約 386 人  
年齢別人口：0～14 歳：約 28 人（7.3%）  
15～64 歳：約 182 人（47.2%）  
65 歳以上：約 169 人（43.8%）

- ◆活動者 ①2名（代表:自治会長、活動協力員:1人（民児委員））  
②2名（代表:自治会長、活動協力員:1人（H30年度自治会長））  
③1名（代表:自治会長）  
④3名（代表:自治会長、活動協力員:2人（H29年度自治会長夫妻））

- ◆活動主体 ①宇都野若林自治会  
②宇都野原坪自治会  
③宇都野根古屋自治会  
④宇都野町井自治会

- ◆活動種別 地域の高齢者及び心配な方の見守り

- ◆対象者 自治会内の高齢者及び心配な方

- ◆設立年月 平成 28 年 9 月

- ◆地域の課題 地域内の高齢化

◆取り組むきっかけ

昔ながらの近所づきあいが濃く、子供からお年寄りまで顔見知りの住みやすい地域ではあるが、設立時の自治会長が「地域の見守り」について、今後の必要性を感じ取り組んだ。

同じ「宇都野地区」ということもあり、若林・原坪・根古屋・町井の4自治会で、共に組織作りを行った。

◆取組内容

対象者宅を訪問したり、近くから様子を伺ったりして見守りながら、その際、活動記録を記入。活動記録票については、気づいたことなどを「メモ書き」する。

情報は民児委員とも共有し連携を図っている。

令和元年10月の台風19号の際は、地域の安全が確認できた後、安否確認や被災状況等の確認のため訪問した。

◆注意点や工夫点

散歩や外出の際、外からの見守りを行うよう心掛けている。

近所同士の何気ない会話から情報交換を行っている。

ほんの少し意識的に見守りをする事で、多くの情報が得られている。

自治会長、協力員、民児委員、消防団など、地域全体で情報共有を行っている。

老人クラブへの加入や生きがいサロンに参加、サポート等で情報を得ている。

◆今後の取組

引き続き、自治会会議や地域の会合（宇都野を考える会他）等の参加や、民児委員との情報共有をしながら継続していきたい。

## ■参考資料

### ○地域共生社会とは

制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会です。



【厚生労働省資料より】

### ○地域住民助け合い事業とは ～ひとりぼっちをつくらない～

地域の一人暮らし高齢者や障害者、子育てをしている方たちなどの悩みや困っていることを見守り活動をとおして早めに気づき、その解決に向けて、みんなで考え、誰もが安心して生活が送れるよう地域ぐるみで助け合える仕組みを作っていく活動です。

### ○地域支え合い推進員とは ～地域づくりのサポート役～

地域住民助け合い事業を進めていくには、地域の人たちとの細やかな連携がとても重要なので、活動についての相談を受けたり、関係団体との調整などを行ったりすることが必要です。

そのため、地域により近い公立公民館で、地域支え合い推進員が地域づくりをサポートしています。

市内の全15公立公民館に1人ずつ配置されています。

地域のさまざまな助け合いの活動を発見・発信することで、助け合い活動の輪を広げていきます。

## 地域取組事例集

---

発行：令和3年3月

編集：那須塩原市社会福祉課  
地域支え合い推進員

住所：那須塩原市共墾社108-2

電話：0287-62-7031